

高知大学医学部
外科学講座外科1

同門会誌
楷風
(年報)
二〇一七
第十二号

楷風

同門会誌(年報) 第12号

平成30年4月

高知大学医学部外科学講座(外科1)

外科学講座外科1教室の大目標

Academic Surgeonの育成

研究マインドを持った手術の上手な外科医の育成

目標達成のための三つの課題

■ 医学教育の充実

母校愛を培う医学教育

■ 良好な手術成績の達成

良好な手術成績は良好な人間関係から

■ 高知発の優れた研究を世界へ発信

すべての研究は英語論文で完結

目次

■ 巻頭言	花 崎 和 弘	1
■ 教室員集合写真		2
■ スタッフ紹介		2
■ 新入局員挨拶	宇都宮 正 人	2
■ 教室の診療研究活動報告		
食道	北 川 博 之	3
胃	並 川 努	3
肝胆膵	上 村 直	4
大腸	岡 本 健	5
小児外科	大 畠 雅 之	6
ヘルニア	藤 澤 和 音	6
乳腺・内分泌	杉 本 健 樹	7
■ 国際交流 ハワイセミナー編	小 林 道 也	8
■ 関連病院寄稿		
高知生協病院	川 村 貴 範	9
医療法人十全会 早明浦病院	古 賀 眞 紀 子	9
医療法人臼井会 田野病院	臼 井 隆	10
社会医療法人近森会 近森病院	八 木 健	11
高知県立幡多けんみん病院	上 岡 教 人	11
特定医療法人仁生会 細木病院	細 木 秀 美	12
特定医療法人仁生会 細木病院	上 地 一 平	14
■ イベント・Happy News		15
■ 学位論文	甫喜本 憲 弘	22

■ 第12回楷風会賞 受賞者	北川博之	25
■ 第12回Impact Factor賞 受賞者	並川 努	26
■ 学外 研修報告		
高知県立幡多けんみん病院	川西泰広	27
高知医療センター	谷岡信寿	27
社会医療法人近森会 近森病院	津田 晋	28
高知県立幡多けんみん病院	藤枝悠希	28
高知赤十字病院	横田啓一郎	28
■ 学外 近況報告		
高知県立幡多けんみん病院	志賀 舞	29
医療法人仁栄会 島津病院	酉家 佐吉子	29
久留米大学外科学講座 小児外科部門	橋詰 直樹	30
がん研有明病院	福留 惟行	30
社会医療法人近森会 近森病院	宗景 匡哉	31
■ 医局事務より		32
■ 手術件数		34
■ 業績:論文発表・学会発表・Grant		39
■ 会員名簿		58
■ 楷風会会則(案)		68
■ 編集後記	花崎和弘	71

同門会誌(年報) 第12号 巻頭言

平成29年4月に新人の宇都宮正人先生をお迎えできた。宇都宮先生は最後の最後まで消化器内科か外科かで迷い、教室員はハラハラさせられ、外科医としてスタートした当初はずいぶん心配した。周囲の心配をよそに、本人は多忙にも関わらず、ひょうひょうと楽しそうに働いている。遺伝子の半分が外科医だけあって、もともと外科医向きなのかもしれない。小生は緊急手術を執刀していて、残念ながら出席できなかったが、12月2日の忘年会ではお腹が引きちぎれるくらい面白い一芸を披露したそうだ。笑う門には福来る。将来一人前の外科医として大きく羽ばたいて欲しいと期待している。

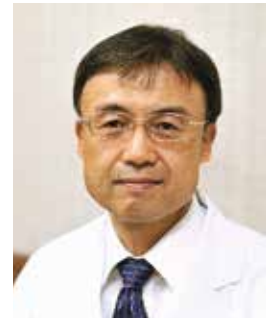
おかげさまで本年も当科の手術数は増加し、病床稼働率も120%を超えていたため、秋ごろ横山病院長にお願いして、病床数を乳腺センターから譲り受ける形で2床増床していただいた。その後も100%以上の稼働率を維持しながら、入院および外来収益ともに順調に増加している。また大学の使命である研究業績は本年も25編の英語論文と15編の主題発表(全国学会・国際学会のみ)をPublishできた。Happy Newsとして宗景匡哉先生が第55回日本人工臓器学会の最優秀論文賞を受賞し、来年度入局予定の石田信子先生が第79回日本臨床外科学会の研修医アワードに輝いた。本年も教室員たちは少ない人数にも関わらず、本当に良く頑張ってくれた。心から「ありがとう」と御礼申し上げたい。

本年は4月の第117回日本外科学会(群馬大学桑野会頭)や12月の第30回日本内視鏡外科学会(京都大学坂井会長)の特別企画において外科医教育について発表する機会を与えていただいた。教育法については様々な報告がある。グローバルな外科医教育は外科医の生命線ともいえる手術を中心に行われている。

20年以上前に読み、その後私の外科医教育の道標となった英語論文を紹介したい。アメリカの某大学の救急救命センターでの実話である。有名な血管カテーテル挿入法の一つにセルジンガー法がある。深夜に運ばれた救急患者の緊急処置としてシニアレジデントのA君がセルジンガー法を試みようとした、その時、指導教授が「君ではなく、ジュニアレジデントのB君にさせなさい」と命じたところから、この物語は始まる。それに対し、A君は「教授、私がやった方が早く正確にできます。B君は経験ありませんし」と答えた。教授曰く「A君、ここは教育も兼ねた医療機関なんだ。君がそうした基本手技をそのままB君に教えなかったら、君はセルジンガー法をずっとやり続けることになり、B君はいつまでたってもセルジンガー法をマスターできないではないか。両者にとって不幸だよ。私が君に教えたように、B君にもセルジンガー法を教えなさい」と。その後、外科医教育に目覚めたA君は、後輩からも慕われ、母校の心臓血管外科教授として迎えられた。A君の薫陶を受けたB君もまた外科医教育に優れた外科教授として活躍したそうである。

上述した論文に感化された私が目指す外科医教育法は、山本五十六式の「やってみせ、言ってきかせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ」である。まずは指導者が部下にお手本となる手術をしてみせる。次に部下にその手技を指導し、執刀させる。うまく執刀できるようになったら、心の底から部下を褒めることが肝要である。外科指導者の3つの心得は、①高難度手術は、自ら執刀してお手本を示す、②標準以下の手術は、率先して若手外科医に執刀のチャンスを与える、③責任は自分が取り、手柄は部下に与えることである。それが組織の結束を強めるだけでなく、部下のやる気向上にもつながる。

外科医教育の理想形は、能や歌舞伎などの伝統芸能やスポーツと同様に、「模倣・蓄積・創造」のたゆまない伝承である。これからもAcademic Surgeon(研究マインドを持った手術の上手な外科医)の育成に心血を注ぎたい。



花崎 和弘

教室員集合写真「さくら道」



平成29年4月3日撮影

【スタッフ紹介】

職名	氏名
教授(附属病院顧問)	花崎 和弘
教授(医療学講座医療管理学分野) がん治療センター センター長	小林 道也
特任教授	大畠 雅之
准教授(病院教授) 乳腺センター センター長	杉本 健樹
講師(病院准教授)	並川 努
講師(医療学講座医療管理学分野)	岡本 健
講師	駄場中 研
助教(学内講師・医局長)	北川 博之
助教	辻井 茂宏
助教	坂本 浩一
助教(病棟医長)	上村 直
助教(外来医長)	沖 豊和

職名	氏名
助教(病理学)	藤澤 和音
特任助教(がん治療センター)	前田 広道
特任助教	小河 真帆
特任助教	宗景 絵里
医員	岩部 純
医員	金川 俊哉
医員	津田 祥
医員	宇都宮 正人
技術補佐員	山崎 裕一
事務補佐員	川村 麻由
事務補佐員	菅野 真由
事務補佐員	山崎 絵里佳
事務補佐員	大原 麻希
事務補佐員(乳腺センター)	辻岡 織江

新入局員挨拶

高知大学卒、2017年から1外科に入局しました宇都宮です。実は消化器内科に入局が決まっていたのですが、わけあって外科に入局することになりました。要領が悪く仕事も時間がかかりますが、先生方のご尽力にてなんとか日々もっております。「わけあって」の原因である父から、患者さんの話をとにかくきけ、とされているので忙しい時でも気長に患者さんと付き合える懐の広さを養っていかれたらと思っています。これから宜しくお願い致します。



宇都宮 正人

教室の診療研究活動報告

食道

北川 博之

今回も大晦日に某病院の当直室でピザを食べながら年報を作成しています。

4月に岩部が5年ぶりに帰還し、食道班は2名体制になりました。高度侵襲の食道手術は術後合併症管理体制が重要ですので、国立がんセンター中央病院で多くの手術を経験してきた彼の存在がチームに安心感を与えています。

2017年の手術症例は重複癌や高度進行癌、慢性基礎疾患をもつ症例が多く、治療方針や術式の検討に苦心した印象があります。内視鏡治療の普及や適応拡大の他、全国トップレベルの飲酒県でもあり高齢県でもある高知の食道外科医の役割はますます重要となりそうです。

胸腔鏡下食道切除術：15例（咽喉頭食道全摘1例含む、サルベージ：2例）、下部食道胃全摘：1例、食道バイパス手術：2例、食道ステント留置術：3例、化学放射線治療：8例

医局長としては相変わらず多々空回りしていますが、緩和ケア、NST、CRC、新専門医制度、NCD、ホームページ更新など、多方面で多くの方々に助けていただきました。引き続き関連施設の皆さんと連携しつつ、高知の外科医療の発展及び教室員の福利厚生の実現を目指して尽力したいと思います。

胃

並川 努

2017年の上部消化管の診療は、北川、上村、岩部、藤澤、津田そして初期研修医の先生方の助けをいただきながら行わせていただきました。特に、岩部、津田の両先生は八面六臂の大活躍をしてくれまして感謝の念に堪えません。手術症例は下記の表に示しております。今年は進行胃癌に対する腹腔鏡手術の短期成績の結果が示され、長期成績は4年後になりますが、今後の低侵襲手術の広まりは確実なものと思われまます。また34症例の治癒切除不能進行・再発胃癌の患者さんの治療も行わせていただきました。大規模臨床試験によるS-1中心の胃癌化学療法の有効性が示されて以降、ほぼ10年が経ちますが、今年も新たな薬物が胃癌治療に使用可能となりました。抗PD1抗体、Nivolumabはその代表で、実臨床での使用を待ちわびておられた患者さんも多く、やはりその有効性を実感しております。また肝転移に化学療法が著効しR0切除が可能であった患者さんもおられて、conversion therapyを考慮する症例が増えてきていることも感じており、標準治療を踏まえた上で、多種多様な個別化治療を考える時代になってくるものと思われまます。そのためにも、看護師、薬剤師、栄養士の方々をはじめ事務関連職も含めてチーム医療の実践は欠かすことのできないものであり、「化学療法室カンファレンス」も行い、情報共有を円滑にして、より高い治療成績の実現を目指しています。

臨床研究としては、多種の多施設共同研究、共同研究に参加させていただいております。医師主導治験として「進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時におけるSPP-005を用いた光線力学診断の有効性及び安全性を検討する多施設共同試験（検証試験）」が開始され、臨床研究コーディネーター、事務の方々のお世話になりながら当院においても治験実施に向けての体制作りを行ってまいりました。一例でも多くの症例登録を行い、新たな薬を患者さんの手元に届けることができるように頑張っ

いりたいと思います。また、多施設共同第Ⅱ相試験として「治癒切除胃癌 Stage III 症例に対する術後補助化学療法としての S-1+Oxaliplatin 併用療法 (Treatment using oxaliplatin and S-1 adjuvant chemotherapy for pathological stage III gastric cancer : a multicenter phase II study : TOSA trial)」の実施にむけて昨年より準備を行い、今年から症例登録を開始しており、今後の進捗を楽しみにしております。

9月10日には、日本消化器病学会平成29年度市民公開講座のお世話を担当させていただく機会もあり、「知ってますか？おなかの健康と病気」のテーマで、高知市文化プラザかるぽーとに172名の一般市民の方々に足をお運びいただき、医療の高度化に伴う医学の進歩とその恩恵を社会一般の方々へ還元するための事業の一環に貢献することができたのではないかと考えております。このような臨床研究、社会還元事業を含めた成果を2017年は学会研究会において胃関連分野で28の演題、誌上で11編発信させていただくことができましたが、新たな研究に取り組めるようにさらに精進してまいりたいと存じます。

私たちの診療および研究が行えるのは同門の先生方をはじめ、看護師、薬剤師、栄養士、医療スタッフ、事務を含めた関連の方々のご協力、ご支援あってのことであり重ねて御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

肝胆膵

上村 直

2017年肝胆膵グループは、4月から花崎教授、上村、藤澤で診療を行いました。また、初期研修医の三木(2ヶ月)、竹森(1ヶ月)も加わって頂きました。

手術症例は下記の表の如く、昨年と比して肝切除数は減少にありましたが、膵切除数は若干増加にありました。胆嚢摘出術が例年よりも多く、津田祥、岩部にも執刀していただきました。高度侵襲手術症例も少なくはありませんでしたが、手術や病棟業務は北川のサポートをいただき、何より藤澤の目を見張る働きぶりのおかげで何とか乗り越えることができました。肝胆膵グループのモットーは最後まであきらめない治療ですが、患者様が満足し笑顔で退院できる安全かつ充実した医療を引き続き提供できるように精進していきたいと存じます。

臨床研究として、従来から行っていました『次世代型人工膵臓を用いた糖尿病患者に対する新しい血糖管理法の確立』の他、『人工膵臓を用いた外科的糖尿病の新たな血糖管理法の開発と発症分子機構の解明』を開始しました。実験実習機器施設に協力をいただいておりますが、引き続き進めて参りたいと存じます。

大学の肝胆膵グループとして、医療技術を高めることの他、研究や教育にも力を注いでいきたいと考えております。同門の先生方には日頃の御支援を心から感謝申し上げるとともに、引き続きの御指導御鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

“変革・change”が必要という考えもありますが、“変わらないことも大事”という考えのもと今年も例年通り、文書構成を変えずにいきます。

大腸グループは、小林道也（医療管理学教授）をスーパーバイザーとし、岡本・前田・志賀（3月まで）あるいは金川（4月から）の3人が中心となって診療を行いました。医局員は川西（2、3月）、宇都宮（3月～9月）が加わり、研修医は大黒太陽（1月）、前原遼（4月）、原田奈々世（8月）、野村真也（9月）、前田将宏（10月）、北代亮太郎（11月）にローテートして頂きました。

2017年の大腸グループが担当した手術症例は昨年より8例減少の162例でしたが、大腸悪性疾患は91例（5例増加）で、約9割を腹腔鏡で行いました。今年は前田が内視鏡外科学会・技術認定医（大腸）の資格申請をすることができました。次は金川が資格申請に向け準備中です。

研究のほうでは、前田の基礎研究（肝細胞がんの新しいモデルをラットで作成）は一旦お休みし、2016年から始めている臨床研究（リンパ節検索における脂肪溶解液の有用性）に重点をおいています。データ解析が終了し、さらに次の段階へ向けてデータ収集を行っています。グループとしては今年も多施設臨床試験に参加しており、以下の研究が症例集積中です。例年に比べ参加臨床試験数は少なくなっていますが、該当する症例がございましたら是非御紹介下さい。当施設独自の研究も行っています。

2017年も少ない人数ながら特に大きなトラブルなく診療することができました。グループのメンバーはそれぞれが若干疲れ気味となっていますが、チーム全員でカバーしあいながら患者さんにとって安全で質の高い医療を提供していきます。今後ともよろしくお願ひします。（敬称略）

■ 術前補助化学療

1. 大腸癌切除可能肝限局転移例に対する術前XELOX+ベバシズマブ（BV）療法の第II相臨床試験（Relief試験）

■ 術後補助化学療法

1. 大腸癌肝転移根治切除例に対する術後補助化学療法としてのオキサリプラチン+カペシタピン併用療法（XELOX療法）の検討（REX Study）

■ 進行再発一次治療

1. 大腸癌に対するoxaliplatin併用の術後補助化学療法終了後6か月以降再発例を対象としたoxaliplatin based regimenの有効性を検討する第II相臨床試験（INSPIRE）
2. 大腸癌の化学療法における血中5-FU濃度モニタリング情報を用いた5-FU投与量の決定

■ 進行再発二次治療

1. FOLFOX plus panitumumabによる一次治療抵抗または不耐となったRAS wild-type、切除不能進行・再発大腸癌に対する2次治療としてのFOLFIRI plus panitumumab療法の有効性に関する多施設共同第II相試験—Liquid Biopsyによるバイオマーカー発現の変化と抗腫瘍効果についての検討—（PBP study）
2. 標準化学療法に不応・不耐の切除不能進行・再発大腸癌に対するTFTD（ロンサーフ®）+Bevacizumab併用療法のRAS遺伝子変異有無別の有効性と安全性を確認する第II相試験（JFMC51-1702-C7）

■ 単施設研究

1. 大腸癌切除後の腸間膜内リンパ節検索における脂肪溶解液の有用性に関する研究
2. 大腸癌術後リンパ節の病理学的診断に関する後ろ向き研究

2017年の小児外科グループの診療は前年と同じく大島、坂本で担当しました。昨年小児外科グループを手伝っていただきました藤枝先生は幡多けんみん病院外科に転勤となり、幡多けんみん病院での月1回の外来と手術を手伝ってもらっています。

年間手術数は84例で2016年からは2例の微増にとどまりましたが、1年を通して安定した手術予定を立てることが可能となっています。新生児手術は昨年と同じく2例（臍帯ヘルニア、低位鎖肛）でした。

外来は2015年から週2回（火曜日、木曜日午前中）を週3回（火曜日午前・午後、木曜日午前、金曜日午前）に変更してから受診者の利便性が向上しました。特に学童では放課後の受診も可能となり、外来受診数は増加しています。東部の県立あき総合病院と西部の幡多けんみん病院に開設した小児外科外来受診数も増加しており、年間受診数はそれぞれ75名と134名になっています。小児鼠径ヘルニアに対して腹腔鏡下根治手術（LPEC）が一般的となってから関連病院に紹介されてくる患者の大部分は大学病院でLPECをおこなっていますが、東西に長い高知県では大学病院受診自体を億劫と考える家族も多く、特殊な手術以外は関連病院での手術も検討しています。

経口摂取が不十分な児に対して胃瘻造設・管理、栄養指導を行っていましたが、児家族やサポート施設の方々への講演の機会を6月に頂きました。県内のサービスを必要とする実数が少ないのが原因かもしれませんが、行政を含めて管理やサポートシステムの遅れを身をもって感じています。早急に何をすればいいのかわかりませんが、サービスを必要とする児、家族へのサポート体制を進めて行きたいと考えています。

昨年に続きましてまずは小児外科認定施設になるために年間100例の手術を目標として頑張りたいと思います。

2017年のヘルニアグループは辻井先生をスーパーバイザーとし、3月までは藤澤、川西が、4月以降は藤澤、津田祥が中心となって多くの先生の手をお借りしながら診療を行いました。また、主に上部消化管グループ、肝胆膵グループをローテートした研修医も診療に従事してくれました。2018年は宗景絵里先生の復帰を楽しみに、また新たな若手の活躍がある事と期待しております。

2017年の手術症例は合計39症例でした。周術期リスクの高い症例が多く、安全性に配慮しながら早期退院を目指した管理を行っております。鼠径ヘルニアに関しては再発リスクを考慮し、女性にはDirect Kugel法を行うなどの工夫をしてみました。また、腹腔鏡下手術に関しては津田が施設見学に行くなど積極的に取り組み、12月に現メンバーでは初めてのTAPP手術を行いました。今後症例を増やしていきたいと考えております。

本年も安全性に配慮したきめ細かい医療を提供することに加えて、研究面では泌尿器科などと連携し鼠径ヘルニアに関する新たな知見を発信できるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

乳腺センターとして2年目の2017年、医師は杉本、沖、小河と外科1講師の駄場中の4人で、残念ながら増員の目処は立っていません。しかし、センター化の効果で乳癌認定看護師の藤原を中心に外来、化学療法室、病棟等の看護師および薬剤師、遺伝カウンセラー、MSW等によるカンファレンスを毎週行い、多職種チームとして診療してきました。

急速に進歩する乳癌治療の中、治療選択肢の増加は患者にとって福音であると同時に、がん告知を受けてから治療開始までの短期間で、薬物療法の選択（特に化学療法の要否）、術式選択（乳房温存 vs 乳房切除、乳房再建での人工物 vs 自家組織）など非常に多くの情報を理解し選択をしなければならぬという大きなストレスを生じています。医師のみで行うインフォームドコンセントでは十分に情報を理解し、本人らしい選択をするのは困難です。看護師による説明の補足や内容の理解度確認、医師に話せない要望の拾い上げ、薬剤師によるきめ細やかな副作用説明、MSWによる社会資源の説明による経済的負担軽減や就労支援など様々な職種の働きで円滑な乳癌診療が行われています。

また、2016年10月に院内で治療中の乳がん患者の語りの場としてスタートした乳がん患者サロン「こはすりボン」も参加者が増加し、ピア・サポート体制の整備は不十分ですが、体験者の声を聞くことで治療法選択の決断を支援する場にもなっています。

他診療科との協調では、形成外科と行ってきた乳房再建が順調に増加し、2017年は16人に1次再建（原発乳癌手術時の同時再建）を行いました。2013年秋の人工乳房（インプラント）保険適応から4年半で再建症例も約100例に達しました。形成外科から栗山・岩井両医師が月1回、乳腺センターのカンファレンスと一緒に再建予定症例を中心にて手術症例の検討を行っています。

臨床遺伝診療部と一体になって取り組んできた遺伝性腫瘍診療では、前年度から開始したBRCA1またはBRCA2に生殖細胞系列の病的変異を有するハイリスク乳癌患者を対象としたPARP-1阻害剤術後投与の国際共同治験（Olympia試験）を継続し、認定遺伝カウンセラー田代・CRC山岡の協力で、1年半足らずで遺伝学的検査受検者が20人を超え、附属病院の治験貢献賞を受賞することができました。また、遺伝学的検査を行った遺伝性腫瘍も遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）（BRCA1/BRCA2）、Li Fraumeni（TP53）、Cowden病（PTEN）に加え、遺伝性びまん性胃がん（CDH1）、家族性大腸線腫症（APC）Lynch症候群のMSI検査などと種類が増え、多彩な遺伝性腫瘍に対応できるようになりました。

HBOCでは産婦人科泉谷医師の尽力でリスク低減卵巣卵管切除（RRSO）の倫理申請が承認され、状況に応じて予防的手術が可能な体制が整いました。

月1回の臨床遺伝診療部のカンファレンスには、院内から遺伝カウンセラー・乳腺内分泌外科・循環器内科・産婦人科・泌尿器科・小児科・耳鼻咽喉科など多診療の医師、院外から高知医療センター・伊藤外科乳腺クリニック・高知赤十字病院など複数の施設から乳腺内分泌外科・産婦人科・小児科・病理など多彩な診療科の医師が参加し、診療科連携・地域連携が可能な遺伝診療体制を整えつつあります。

国際交流 ハワイセミナー編



高知大学医学部医療学講座医療管理学分野

教授 小林 道也

高知大学医学部の国際交流推進委員会委員長を2007年4月より務めさせていただいています。その最初の大きな仕事はハワイ大学医学部との部局間協定でした。ハワイ大学医学部との協定締結には前任の委員長もずいぶん苦勞され、なかなか実現しませんでした。2010年2月に何とか実現することができました。毎年、本学学生がワークショップやKuakini Medical CenterでのClinical clerkshipに参加し、ハワイ大学側からも3名の学生が6月下旬から7月にかけて2週間本学に訪れます。その際には県内の医療機関にもご協力をいただいている次第です。本稿では国際交流の一環として、がん治療センターが主催しているホノルルでのセミナーをご紹介します。

2012年からもともとは医科歯科連携を推進する目的で始めたものです。全国より、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、栄養士、学生、事務職員などが参加し、施設見学とレクチャーを3日間ホノルルで行っていました。近年ではこれに医学教育がキーワードとして加わっています。2017年の2月まで計6回開催しています。これまで14都道府県とホノルルから158名の方が参加してくださっています。修了書もデザインを毎年考えて発行しており、報告書も高知大学附属病院がん治療センターのホームページに記載していますので是非ご覧ください。

2018年は2月20日～22日にワイキキのアロヒラニリゾートワイキキビーチ（以前のパシフィックビーチホテル）で開催します。初日はハワイ大学医学部訪問、イブニングセミナー、2日目はQueen's Medical Center, Kalihi Palama Health Center, St. Lukes Clinic, Honolulu Dental Clinicなどを訪問・見学し、最終日はProf. Junji Machi, Prof. Richard Kasuya, Dr Mitsuaki Suzukiなどハワイ大学医学部の講師陣や日本の看護師のグローバル教育をハワイで展開しているMs. Yuka Hazamなど多彩な講師陣によるレクチャーを予定しています。夜はSocial programも計画しており、毎年タイトなスケジュールの中にも懇親の場を設けて、参加される方に好評です。

これまで高知からも計56名の参加をいただいています。もしご興味がありましたらご連絡いただければと存じます。この事業は2019年以降も継続していく予定です。



関連病院寄稿

高知生協病院

外科 川村 貴範

昨年も色々ご指導頂きありがとうございました。さて、1年の手術症例を振り返ってみると、伊藤乳腺クリニックの安藝先生のご協力、ご指導のもと、乳癌手術の増加に伴い、全体的に手術症例が増えました。こういう事で自分たちの知識が増えていき、日常の診療にも活かしていけるのではないかと感じており、とても感謝しています。手術室においては1年ほど前よりやっと手術時の保温マットを購入し、術中の体温管理を行っています。導入後は、術後低体温が減少し、それによってまず麻酔覚醒時のシバリングが減少しました。また、創感染も減少しているようです。時々、術後患者さんが暑がって汗をかいていることもあり、同じ温度で設定していても個人差があるようです。患者さんにとっては良いのですが、術者としてはちょっと暑く感じてしんどいと思う時もありますね。けど、そこは我慢しなくては!と感ずてます。

当院では、他院より高齢者の入院治療受け入れが毎年徐々に増加しています。その中に緊急手術や待機手術の対象となる患者さんが散見されるようになってきました。これはどこの施設でも同様なかもしれません。しかし、当然と言えば当然ですが、80歳も超えて、ADLも落ちて、そして認知症も入ってきている患者さんにどのように外科的にアプローチするのか、一言では答えは出ず、今後もしばらくは悩みながら治療していくことになりそうです。

最後に個人的なことですが、ついに子供達が3人とも大学生となってしまいました。やっとというか、ついにというか、です。静かになって寂しいですが、ここ数年を何とかして乗り切らなければ(教育費にいったいどのくらいかかるのか!)等など、色々と考えたりしてしまい、その都度ちょっと気持ち沈んだり、突然張り切り出したりと気持ちの浮き沈みの激しいこの頃です。それでも県外にいれば、子供を口実に遊びに行けるのは良いですね。

こんな感じではありますが、中小病院の外科医としての守備範囲はきちっと守っていけるよう頑張っていきたいと思ひます。今年もよろしくお願ひいたします。

医療法人十全会 早明浦病院

院長 古賀 眞紀子

皆様、新年明けましておめでとうございます。

この冬は、全国的に気温が低く、ここ嶺北でも例年にない寒い日が続いています。みぞれや雪が降りたりして、朝晩は、路面の凍結もありますので、車の運転は要注意です。この時期、外来では、インフルエンザの流行などで、小さなお子さんの診療が増えています。嶺北地域の小児科医は、私だけです。気合いを入れて診療に当たっているところです。

さて、早明浦病院では、お子さんからお年寄りまで、地域の皆様のご要望にお応えすべく、住み慣れた地域で安心して暮らしていけますよう医療の提供に努めています。外来部門は、内科、外科、小児科、精神科、眼科を始め11診療科を設置していますが、その全ての診療科に高知大学医部のご支援をいただいています。なかでも第一外科教室には、高知医科大学開学以来、医師の派遣についてご高配をいただいています。花崎教授をはじめ、医療の最先端でご活躍の先生方に外来診療を担ってい

ただいでいますので、患者さんから大きな信頼と安心を得ています。また、そのことが、病院の信用にもつながっており、感謝申し上げる次第です。

本年も引き続きご支援、ご協力のほど、お願い申し上げます。最後に第一外科教室のますますのご発展と先生方のご活躍をご祈念申し上げます。

【追伸】皆様は、土佐町でりんごが採れることをご存じですか？りんごは信州が本場ですが、土佐町でも採れるのです。土佐町の気候や土質などが栽培を可能にしたのでしょうか。町内には、2箇所のりんご園があります。りんご狩の時期は、8月下旬から1月下旬と聞いています。初めて、赤い実をつけた本物のりんごの木を見た職員が喜んでいました。皆様、ご賞味においでませんか。



医療法人白井会 田野病院

理事長 白井 隆

『新年を迎え 30 年前を懐かしむ』

2018 戌年、高知大学外科 1 の同門の皆様、新年おめでとうございます。

田野病院は昭和 61 年 4 月 1 日に開院し、今年の 4 月で開院満 32 年を迎えます。少子高齢化という大きな流れの中で、地域の医療環境も変わり、地域の産業（林業、漁業）にも変化が起きて、人の流れも変わり、特に室戸の病院事情は変わってしまいました。以前の高知医大、第 1 外科から院長として、また勤務医として活躍していた医療機関も姿を変え、小児科はなくなり救急医療も対応出来なくなり、この 1 月末で 1 つの病院は閉鎖する事になりました。研修医制度、看護師不足も大きく影響したと思われます。また新たな地域医療体制が構築されてくると思われますが、専門医制度がどうなるか、診療報酬の医療・介護同時改定の影響がどうなるか、地域医療にとっては次から次へと新たなハードルが目の前に現れてきます。新年を迎え、病院の閉鎖の話しを耳にして、30 年ほど前を懐かしく思い出すと同時に、これからの安芸郡下（東部）の医療体制構築に、もうひとがんばりしたいと考えています。田野病院では昨年春に新しく院長を迎え、初期研修 2 年目の地域研修を 1 ヶ月交替で引き受けが始まり、年末には内科医師を迎え、本年 1 月からは中芸地域では初めての訪問看護ステーションを開始し、少しずつではありますが、皆様のご協力をいただきながら、体制づくりに努めています。本年もご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

外科 1 の同門の皆さんの益々のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。

2017年より当院では院長・副院長が交代し、新たな体制の近森病院がスタートいたしました。それに伴い北村龍彦前副院長に代わって、私が外科主任部長という形で後を引き継がせていただくことになりました。私は平成元年に群馬大学第一外科に入局し、初めて近森病院に赴任したのが平成4年でした。それ以降は大学に戻ったり大学院に行ったりしながら出戻りを繰り返して、近森病院には合計で約16年間勤務しています。その間に高知大学外科1の多くの先生方と共に仕事をさせていただき、多くを学ばせていただきました。花崎教授・小林教授には手術をご指導いただきましたし、山本拓先生・直木一朗先生・小林昭広先生・氏原孝司先生・お亡くなりになりましたが泉山史貴先生・中村生也先生・北川尚史先生・水嶋秀先生・辻井茂宏先生・上村直先生など個性あふれる先生方と素晴らしい時間を共にすることができました。高知大学外科1教室の皆様には、自身の出身である群馬大学第一外科に勝るとも劣らない気持ちを感じています。

外科医不足が深刻化していますが、これからの高知県の外科を支えていくには、県内唯一の外科プログラムのある大学の役割が非常に重要になります。しかし、これはもちろん高知県全体の問題ですので、県内の病院全体で協力しながら魅力ある環境を作って外科医を育てていかなければと強く感じています。微力ではありますができる限りの協力をさせていただくとともに、今後とも外科1教室には大変お世話になることと思いますので、よろしく願いいたします。

高知県立幡多けんみん病院

外科 副院長 上岡 教人

平成29年は、当初、上岡教人、秋森豊一、金川俊哉、津田晋、津田祥の5名の体制で診療を行いました。そして、2月より高知大学外科1から藤枝悠希Drが加わることになり6名の体制となりました。そして、4月には、金川俊哉Drと津田祥Drが高知大学外科1へ、津田晋Drが近森病院へ異動となり、代わって、高知大学外科1から、志賀舞Drと川西泰広Drが、また、5月より、高知医療センターより徳丸哲平Drが加わることになり、29年は概ね6人体制で診療をすることができました。さらに、細木病院の尾崎信三Dr、高知大学外科1の沖豊和Dr、高知大学がん治療センターの前田広道Dr、高知医療センター消化器外科Drに引き続き診療・手術応援をしていただき、無事に平成29年を過ごすことができました。

藤枝Drはこの11か月で、全麻手術を114件（鏡視下手術27件）執刀、川西Drはこの9ヶ月間で、全麻手術101例（鏡視下手術38件）を執刀し、術後管理や救急と昼夜を問わず頑張ってくれました。

平成28年度、外来延患者数8,009人（1日あたり32.9人）、入院延患者数11,244人（1日あたり30.8人）でした。

診療は、手術療法を主体に、癌化学療法、緩和療法を積極的に行っています。

手術療法は、食道、肺、乳腺、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、脾臓、肛門、鼠径部ヘルニアなどを中心に手術を行っています。平成29年、当外科の手術件数は476例（全麻453例、局麻23例）、緊急手術92例であった。悪性疾患は164例で、その内訳は食道癌5例、胃癌38例、大腸癌59例、乳癌26例、肝臓癌15例、胆道癌4例・膵臓癌8例などであった。良性疾患では、良性胆嚢疾患84例、鼠径および大腿ヘルニア60例、急性虫垂炎36例、腸閉塞症22例、汎発性腹膜炎21例などであった。また、鏡視下手術は140例、主に良性胆嚢疾患、食道癌、胃癌、大腸癌、

自然気胸に対して施行した。

化学療法は術後補助も含め積極的に行っており、治療計画表に従って副作用の防止に努めながら実施している。平成 28 年度、入院および外来治療室で施行したのは 96 名（大腸癌 28 名、乳癌 41 名、食道癌 13 名、胃癌 12 名、肛門管癌 1 名、肺動脈血管肉腫 1 名）。治療法の内訳（重複例あり）は、BV+mFOLFOX6：5 例、BV+XELOX：1 例、BV+sLV5FU2：6 例、BV+Xeloda：5 例、BV+PTX：6 例、BV+FOLFIRI：7 例、BV+IRIS：3 例、BV+SOX：4 例、Pmab+mFOLFOX6：1 例、Pmab+sLV5FU2：1 例、Pmab+FOLFIRI：2 例、RAM+PTX：8 例、RAM+FOLFIRI：1 例、mFOLFOX6：1 例、FOLFIRI：2 例、XELOX：2 例、sLV5FU2：1 例、XELIRI：1 例、EC：9 例、TC：1 例、DOC：12 例、HER 単独：16 例、HER+SP：1 例、HER+XP：1 例、HER+PTX：4 例、High-DoseFP+DOC：12 例、High-DoseFP 2 例、XP：1 例、weeklyTXL：4 例、weeklyGEM：1 例、ハラヴェン単独：2 例、HP：5 例、HP+DOC：3 例、カドサイラ単独 2 例、ナベルピン単独 1 例などである。また、S-1、UFT+LV、カペシタビンなどの経口薬にて治療を行っている患者さんも数多くおられます。今後も分子標的薬など新しい抗がん剤や治療法についてもその効果と安全性を確認した上で、引き続き積極的に取り入れていく予定です。

当院は高知県の西南端に位置し、この二次医療圏における中核的病院として、平成 24 年 4 月 1 日より地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。地域には緩和ケア病棟やホスピスはなく、緩和ケアに関しても当院が中心的役割を果たしています。当科では、平成 28 年度、新入院患者数 642 名、新入院がん患者数 281 名、実入院がん患者数 172 名、看取りを行ったがん患者数 19 名。例年に比べ、看取りの患者さんがやや少ない年でした。緩和ケアに関しては、まだまだ満足できる状態ではありませんが、疼痛コントロール、精神的なケアなど、病棟スタッフや緩和ケアチーム、退院調整部門の助けをかり、そして、地域の病院や訪問看護ステーションと連携をとりながら、患者さんやその家族の方々が身体的・精神的に落ち着いた時間を過ごしていただけるように努力しています。

また、地域がん診療連携拠点病院の地域への活動として、地域へのがんの啓発・教育活動にも力を入れており、平成 29 年は、幡多ふれあい医療公開講座の中でがんの講演を 2 回、地域に出向いてミニ講演を行うがんの学び舎を 11 回、幡多地域の中学生を対象にがんの訪問授業を 5 校に行いました。

『メキシコと日本人』

米国ボストンの歯科研究所で研究に勤んでいた娘が、10 年前に、偶然メキシコ人歯科医と結婚してメキシコで暮らし始めて以来、メキシコの事が気になってしょうがい。今まで数回、孫の顔を見る為にメキシコを訪れたが、メキシコ人は相対的に日本人には親しみを持ってきている気がする。1,000 円札でお馴染みの野口英世博士も、メキシコのメリダで一年間、黄熱病の研究に勤んだ国だ。そこで、日本との繋がりについて文献的に紐解いてみた。古くは、今から 400 年以上前の戦国時代の末に、伊達政宗の命で、太平洋を横断し、メキシコの西岸の今の保養地、アカプルコから馬車でカリブ海に出て、ローマ法王に拝謁した支倉常長と少年たちの話。そして、幕末に五稜郭で籠城して降伏した榎本武揚が、明治政府の我が国最初の外務大臣となって、メキシコへ移住させた日本人が、その地域の住民の教育などに尽力した。第二次世界大戦時に、メキシコ政府がその子孫たちを擁護してくれた話はよく知られている。しかし、その他にも、多くの日本人がメキシコ建国の為に貢

献している事を知った。独裁者、ポルフィリオ・ディアスを打ち破って民主制度、土地改革、貧富の差解消を目指したメキシコ革命（1910～1920）時代には、多くの日本人がメキシコの為、働いて、今でも感謝されている。一番有名な人物は、メキシコ革命軍の北部師団奇兵隊第一大尉となった福岡県出身の野中金吾である。彼は、チワワ州の市民病院の看護助手となったが、その医師を助ける手腕は、高く評価され、手術の補助術は、正式の看護師を凌駕していた。1911年3月に、フラン



メキシコの間や文明時代の遺跡、chichen itzaのピラミッドの前で

シスコ・イ・マデロ軍が独裁者の連邦軍と戦った時、イ・マデロの手榴弾の傷を、すぐに処置した事で、評価された。イ・マデロは、その後、メキシコ大統領になっている。革命後、野中はメキシコ国立循環器病研究センターの設立者の一人となって、メキシコの医療の発展に尽力している。その他、パンチョ・ビシャ將軍の個人コックになっていた、西野ツルオ氏。柔道家としてメキシコ革命軍の兵士に武術を教えた、原田シンゾウ氏。革命軍の中尉にまで進んだ田中ゼンゾウ氏、第一大尉になった山根アントニオ氏、二等軍曹になった中原エミリオ氏等、大勢の日本人が、現在のメキシコ建国に尽力していた事が記録に残っている事を初めて知った。しかも、メキシコ滞在中に、メキシコ人の外科医から偶然聞いて、本当に驚いてしまった。現在、あの当時の日本人の活躍は、我が国では誰も話題にしない。何か、とても残念な気がするし、外国との繋がり、国と国よりも、人と人のつながりがすごく大切だと、つくづく思っている。

皆様、国際会議などで良く行かれるメキシコ合衆国のユカタン半島にある有名リゾート地のカンクンから、バスで3時間ほど、奥地に分け入りますと、6世紀のマヤ文明の遺跡が、突如現れます。スペイン語と英語のガイドのみで、日本語はありませんでした。

学会で行かれた時には、是非、必見です。野口英世博士のいたメリダからはバスで2時間です。

当院の外科は私と尾崎外科部長の二人体制ですが堀見院長の監視の下ここ2～3年は手術症例は増加しています。当院のオープンシステムを使い、伊藤外科の安藝先生、福田心臓・消化器内科の藤島先生にきていただくようになってから乳腺・甲状腺の手術症例が飛躍的に増加しました。(2017年は乳腺52例、甲状腺5例でした。)2017年は全麻・腰麻症例が132例あり、胃がん症例が減り、大腸がん、肛門疾患、鼠径ヘルニア、ラパ胆、虫垂炎症例は横ばいでした。

私事ですが、勤続20年のご褒美に旅行券を頂き、昨年銀婚に当たる年だったので思い切って8泊10日のイタリア銀婚旅行に行ってきました。10日間も仕事を休むのは初めてだったので、後ろ髪を引かれる思いもありましたが、尾崎先生と安藤先生にお任せしてわがままをさせてもらいました。ヨーロッパは行ったことがなく、旅行先は家内の希望です。子供たちも誘いましたがあっさり断られ、新婚旅行以来の夫婦ふたりだけの旅となり、どうなることやらと行く前から気を揉んでいました。イタリアは治安が悪く、日本人は舐められると聞いていたので、2週間前より髭を生やして、サングラスを持参していきました。その甲斐あってかスリに会うことも襲われることもなく、無事に帰ってくることができました。(但し、地下鉄ではジロジロ見られ危険を感じました。)ローマ→フィレンツェ→ベネチア→ミラノを周り、思い出に残るとても楽しい旅になりました。

外科(一)教室にはいつも大変お世話になりっぱなしで何の恩返しもできませんが、今後も微力ながら何かのお役に立てるよう精進していきたいと思えます。

イベント・Happy News

2017年イベントスケジュール

- 1月●沖 豊和先生 日本外科学会専門医 取得
- 3月●北川 博之先生 高知大学医学部附属病院 研究者表彰 受賞
- 3月●前田 広道先生 高知大学医学部附属病院 研究者表彰 受賞
- 4月●宇都宮 正人先生 入局
- 4月●花崎 和弘先生 (センター長) 光線医療センター 開設
- 4月●並川 努先生 科学研究費 基盤研究 (C) 採択
- 5月●第 24 回特別講演会・楷風会総会・懇親会 開催
- 7月●学生さんとアドバイザー教員との懇親会 開催
- 9月●宗景 匡哉先生 第 55 回日本人工臓器学会大会 論文賞 受賞
- 9月●並川 努先生 (当番会長) 日本消化器病学会四国支部会 開催
- 9月●花崎 和弘先生 (総会会長) 第 58 回日本人工臓器学会大会 決定 (2020 年)
- 11月●GENIUS 開催
- 11月●研修医 石田 信子先生 第 79 回日本臨床外科学会 研修医 Award 受賞
- 12月●医局忘年会 開催
- 12月●周術期栄養療法セミナー 開催
- 12月●甫喜本 憲弘先生 学位論文 (2018 年春に授与予定)

5月

第 24 回特別講演会・楷風会総会・懇親会

日時：平成 29 年 5 月 27 日 (土) 16:00

場所：ザ クラウンパレス新阪急高知 高知市本町 4-2-50 TEL: 088-873-1111

● 第 24 回楷風会 特別講演会



「若手外科医の育成と 新規治療開発」

千葉大学大学院医学研究院
先端応用外科学 教授
松原 久裕 先生



「日本臨床外科学会について」

杏林大学 学長
跡見 裕 先生



座長
花崎 和弘 先生

● 総会



● 懇親会



会長挨拶・教室近況報告
花崎 和弘 先生



来賓挨拶
社会医療法人 近森会 理事長
近森 正幸 先生



乾杯
医療法人川村会 くぼかわ病院 院長
大西 三郎 先生

● 学位論文



西家 佐吉子 先生



志賀 舞 先生



福留 惟行 先生

● 新入局員紹介



宇都宮 正人 先生

● 表彰式



楷風会賞
北川 博之 先生



Impact Factor 賞
並川 努 先生



中締め
医療法人白井会 田野病院 理事長
白井 隆 先生



7月 **学生さんとアドバイザー教員との懇親会 開催**

研修医前田先生、石田先生、竹森先生と学生 5.6 年生を囲んでの懇親会を行いました。
皆様、ありがとうございました。

学生さんからの意見

一外の雰囲気を楽しんで良かった！
来年から医師となるにおいて、先生方の実体験からのお話はとても参考になりました。

これからの研修についての話しや、相談にももっていただき、大変有意義な時間となりました。



9月

第 55 回日本人工臓器学会大会論文賞受賞 宗景 匡哉 先生

宗景匡哉先生が日本人工臓器学会で論文賞を受賞しました。
宗景先生おめでとうございます!!

宗景先生より一言

この度 2017 年 9 月 1 日～3 日に東京都 法政大学で行われた第 55 回人工臓器学会大会において論文賞をいただきました。大学在籍中に研究し報告したものです。術中、術後の急性期における皮下持続血糖測定装置の正確性を経静脈持続血糖測定装置と比較し、その課題を指摘した内容でした。詳細は JAO 2015 をご参照ください。論文賞は個人で受賞したのではなく、指導者、共同研究者、研究に参加いただいた患者さんや、その他治療に関わった全てのスタッフの方々のおかげであります。研究の内容は小さな一歩であってもやがて沢山の患者さんの役に立つ大きな一歩につながるものと信じ、引き続き精進してまいります。よろしく願いいたします。



9月

第 77 回四国支部日本消化器病学会 市民公開講座 当番会長 並川 努 先生



日本消化器病学会 市民公開講座を
かるぽーとで開催いたしました。

当日は 170 人を超える一般市民の方にご来場いただき、無事盛会の内に終了することが出来ました。

ご協力いただきました同門会の皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



市民の方のご意見

どの先生も分かりやすく興味が持てる講演でした。
悩みを抱えていましたが、先生のお話を聞くことができ本当に来て良かったです。
こういった市民向けの講演をぜひ続けてほしい。

11月

GENIUS 開催



研修医前田先生・三木先生と学生さんを囲んで GENIUS を開催しました。
当日はお天気にも恵まれ親睦を深めるよい機会となりました。皆様ありがとうございました。

研修医の先生・学生さんの意見

外科のキャリアパスについて濃厚な議論がなされ良い刺激となりました。
外科にとっても興味があるのでとても楽しかった。
ポリクリを回って外科に興味を持つことができたので、このような機会を得ることができ嬉しく思います。これを糧に国試に向けて頑張ります！

11月

第79回日本臨床外科学会 研修医 Award 受賞 研修医 石田 信子 先生

研修医の石田信子先生が日本臨床外科学会で研修医 Award を受賞しました。
石田先生おめでとうございます！！

石田先生から一言

このような賞がとれて光栄です。
入局後も頑張ります！





医局忘年会 開催

● 菅生 貴仁 先生 壮行会

菅生貴仁先生（免疫難病センター）が1月よりアメリカ「Thomas Jefferson University Department of Medical Oncology」に留学されます。

医局員一同、心より応援しております！



● 余 興



乾杯・並川 努 先生



宇都宮 正人 先生
(サンシャイン池崎)



岩部 純 先生
(サンシャイン池崎)



藤澤 和音 先生、津田 祥 先生、看護師さん
(バブルダンス)



麻酔科・山中 大樹 先生(歌)



● 縁の下の力持ち賞 受賞 藤澤 和音 先生

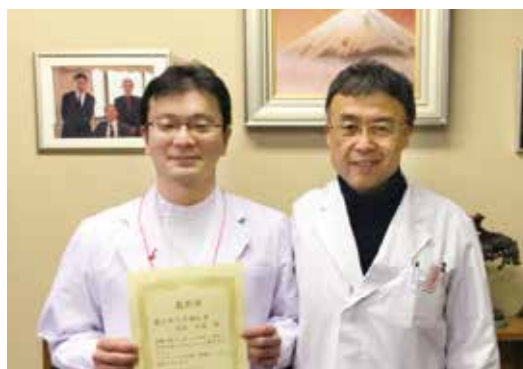
藤澤先生は、平成27年入局以来、外科1教室のイベント行事や医師勧誘活動に積極的に取り組んで来られました。その功績に深く感謝の意を表し、教室より「縁の下の力持ち賞」を受賞されました。

藤澤先生おめでとうございます!!

◎ 縁の下の力持ち賞 受賞 前田 広道先生

前田先生は永きに亘り、教室員の研究や論文の執筆をサポートし、外科Ⅰ教室の業績発展のために貢献されました。その功績に深く感謝の意を表し、教室より「縁の下の力持ち賞」を受賞されました。

前田先生おめでとうございます！！



12/15

周術期栄養療法セミナー 開催 横浜市立大学大学院医学研究科 消化器・腫瘍外科学 教授 遠藤 格 先生

横浜市立大学大学院医学研究科 消化器・腫瘍外科学 教授 遠藤 格先生にご講演を賜りました。

日本のトップクラスの肝胆膵疾患のエキスパートである遠藤先生のお話は、私たちが聞いても、とてもわかりやすく、周術期や化学療法中の栄養について詳しいお話を聞くことが出来ました。60分が本当に貴重で、時間があっという間でした。大変勉強になりました。

遠藤先生、高知までお越しいただき、本当にありがとうございました。



12/22 周術期栄養療法セミナー 開催 帝京大学医学部外科学講座 教授 福島 亮治 先生

帝京大学医学部外科学講座 教授 福島 亮治先生にご講演を賜りました。

たいへん著名な福島先生に来ていただきました。福島先生のお話の内容はとても興味深く、これまで思っていた常識がひっくり返りました。テレビでも注目されている、体を作るアルブミンはとても関心があり、具体的な例をあげて説明してくださったので、話がすんなり入り楽しく講演を聞かせていただきました。

福島先生、高知までお越しいただき、本当にありがとうございました。

福島先生、高知までお越しいただき、本当にありがとうございました。



A novel color fluorescence navigation system for intraoperative transcutaneous lymphatic mapping and resection of sentinel lymph nodes in breast cancer : comparison with combination of gamma probe scanning and visible dye methods
(乳癌におけるセンチネルリンパ節の術中経皮的リンパマッピングと切除のための新規カラー蛍光ナビゲーションシステム：ガンマプローブ走査法と可視色素法との比較)

(論文要旨)

本研究は、インドシアニングリーン (ICG) の近赤外蛍光を利用した術中センチネルリンパ節生検 (SLNB) の新しいイメージングシステムとして、HyperEye Medical System (HEMS) を開発し、従来行われてきたガンマプローブ走査を用いた Radio Isotope 法 (RI 法) と可視色素法 (色素法) とを比較して、単一の施設における HEMS の臨床的有効性を評価・検討したものである。この研究の背景として、これまで腋窩リンパ節郭清 (Ax) は、乳癌患者の腋窩リンパ節状態を評価するための標準的な手術手技であった。しかし、残念なことに、Ax には、リンパ浮腫、神経障害、および患側上肢の運動制限などの合併症を伴うことが多かった。これらの合併症を引き起こさないようにリンパ節転移の有無を評価するために、代替的かつ低侵襲的方法として、SLNB が出現し、現在では SLNB の結果によって Ax を行うかどうか決定することが標準術式として広く行われている。しかし、センチネルリンパ節 (SLN) を同定できなければ腋窩郭清が必要となり、その結果、転移がなければ、患者にとっては不必要かつ過大な侵襲が加えられたということになるため、SLN の同定を確実にする必要がある。従来の SLNB は、インディゴカルミンのような色素を用いた色素法、放射線同位元素を用いた RI 法、ICG の近赤外蛍光を利用した蛍光法を単独、もしくはこれらの組み合わせで行われてきた。しかし、いずれの方法にもデメリットがある。色素法は簡便に行うことができるが、未熟な手術手技や肥満の患者では同定率が下がってしまうこと、RI 法は放射線管理区域が必要であること、蛍光法では術中暗視野にして確認する必要があり、頻回の明暗によって術操作がスムーズにいかないことがあげられる。これらのデメリットを改善すべく、我々は新しいカメラシステムとして HEMS を開発した。

Photodynamic Eye (PDE, HAMAMATSU Co., Ltd) は、ICG に 760 ~ 780nm の近赤外線を照射すると、ICG が 800 ~ 850nm の近赤外蛍光を発するという性質を利用して、発せられた近赤外蛍光を特殊カメラで撮影・処理した後、モニタに映し出すことで、本来可視できない近赤外線を可視化できるようにしたシステムとして確立されていた。

しかし、従来の PDE は暗視野でのみモノクロ画像としてモニタに描出可能であったが、HEMS はこれまでモノクロであった近赤外蛍光画像を、手術中の明視野において鮮明なカラー画像として視覚化できるように開発したカラー蛍光ナビゲーションシステムであり、暗視野にすることで術操作の妨げになるのを防ぐことができる画期的なシステムである。リンパ管および SLN を容易に同定可能である。また使用において放射線管理区域は不必要であり、どこの医療施設でも使用可能である。

(対象)

この研究では、2007年4月から2009年3月まで高知医科大学病院で治療された、組織学的に確認された乳癌患者91人を対象とし、HEMSと従来のインディゴカルミンを用いた色素法と^{99m}Tc-Snコロイドを用いたRI法とでSLNとリンパ管、およびその同定率について比較・検討を行った。すべての患者は腫瘍計3cm未満、clinical N0であった。

(SLNBの方法)

手術の前日に120mBqの^{99m}Tc-Snコロイドを乳輪縁皮下に注射し、10分間マッサージする。

手術日に手術室でガンマプローブを用いて、SLNの位置を推定する。

ICGとインディゴカルミンを乳輪縁皮下に注射し、5分間マッサージする。

HEMSを用いてリンパ管の走行を確認する。場合によっては、ガンマプローブで推定されていた場所にSLNを透見できることもある。

腋窩に3cmの皮切を置いて、直視下に色素を、HEMSのモニタで蛍光を確認しながら、SLNBを行う。これらすべてを明視野で行うことができる。

摘出されたSLNを術中迅速病理に提出。2mm間隔で切片を作成し、HE染色で転移の有無を確認。腫瘍細胞があった場合はその範囲を計測する。

- ① 200 μ m 未満：Isolated tumor cells (ITC)
- ② 200 μ m 以上2mm以下：Micro metastasis
- ③ 2mmより大：Macro metastasis

①の場合は転移なしと判断し、Axを省略。②③の場合は転移ありと判断し、Axを追加した。

(結果)

HEMS、色素法およびRI法の組み合わせを用いて同定されたセンチネルリンパ節(SLN)の中央値は1.5個(範囲1~6個)であった。SLNはHEMSによってすべての患者で同定できた。しかし、2人の患者において、色素法およびRI法で同定できなかった。また別の2人の患者では、色素法で同定されなかった。したがって、SLNの同定率は、HEMS：100%、色素法：95.6%、RI法：97.8%であった。また、ICG注射部位からSLNまでのリンパ管走行をどこまで追えるかをHEMSで検討したところ、91人の患者のうち87人(95.6%)がRI法で同定したSLNの位置から2cm以内の距離まで、31人(33.7%)ではSLNまで同定可能であった。

平均9.1年(8.1~10.1年)のフォローアップ期間で、HEMSによってリンパ節転移陰性と確認できた患者に、1人の腋窩リンパ節再発も認めていない。

近赤外蛍光とインドシアニングリーンを用いた乳癌のセンチネルリンパ節検出に関する 報告と本研究との比較

Authors	Year	Number of patients	SLN identification rate	Mean number of SLNs	Imaging system
Kitai et al.	2005	18	94.0	2.8	PDE
Tagaya et al.	2008	25	100	5.4	PDE
Murawa et al.	2009	30	96.7	1.8	Other
Troyan et al.	2009	6	100	1.5	Other
Hojo et al.	2010	113	99.3	3.8	PDE
Hirche et al.	2010	43	97.7	2.0	Other
Tagaya et al.	2011	50	100	3.7	PDE
Miego et al.	2011	24	100	1.5	Other
Van der Vorst et al.	2012	24	95.8	1.5	Other
Schaafsma et al.	2013	32	100	1.0	Other
Guo et al.	2014	86	93.0	2.4	PDE
Tong et al.	2014	96	96.9	3.8	PDE
Present study	2017	91	100	1.5	HEMS

(結語)

HEMS は手術中の明視野において、センチネルリンパ節を 100% 同定でき、リンパ管の走行も簡単に確認できた。従来の方法のデメリットをカバーできる SLNB の新しいモダリティとして提供できると結論づけ、臨床応用されることを期待する。

掲載誌：Oncology, In printing

(感想)

2006 年に荒木前教授に言われるがまま、よく考えもせずに大学院に入学することになりました。その時のイメージとしては、入学して言われるとおりにしてたら卒業できるんだろうなって思っていました。しかし、入学してすぐに幡多けんみん病院に転勤となり、臨床に没頭する毎日を過ごし、大学院のことはすっかり頭から離れていました。2008 年に大学に戻る際に、杉本准教授の乳腺・甲状腺グループに所属することになり、その際に本研究が決まりました。臨床研究であったため手術時データの集積および解析を行い、生理学（循環制御学）教室の佐藤教授の助けもいただきながら、データとしてはしっかりまとまりましたが、自分の苦手意識からなかなか英文の筆が進まず、学術論文としては遅々として進まない状況で、時間だけが過ぎていきました。そうこうしているうちに現職場の高知赤十字病院へ転勤となり、ますます論文執筆が進まない状況となりました。通常であれば見放されてもおかしくないところですが、花崎教授はこんな自分を見放さずに、定期的に進捗状況を確認して指導していただきました。そのつどありがたい叱咤激励もいただきながら、徐々に論文執筆が進んでいきました。最終的には並川講師に論文掲載までごぎつけていただき、なんとか在学期限ぎりぎりの 12 年間（内休学を含む）で卒業、学位取得となりました。

かなり難産な学位取得となりましたが、花崎教授、杉本准教授、並川講師をはじめ、ご指導いただきました先生方々、主査、副査を引き受けてくださった先生方に心よりお礼を申し上げます。

第 12 回楷風会賞 受賞者

楷風会賞を受賞して

北川 博之

今回も楷風会賞をいただき、大変光栄です。いつも助けていただいている教室の皆様にお礼申し上げます。

2017 年は発奮して英語論文を 6 編 publish できました。また 1 件 accept いただきました。特に ICG 蛍光法を用いた再建の論文は、自身初めて Surgical Endoscopy に採択された上に、高知大学のオリジナリティがあふれる我ながら良い論文ではないかと思えます。30 代最後の年にしてようやく、「手術成績を検証し、より良い手術を作り出す過程を論文として記録に残す」という仕事の軸が定まってきたのではないかと思います。

医局長としては相変わらず悩みの連続ですが、手術、NCD、論文、新専門医制度、そして勧誘と課題が山積しており、引き続き努力しますので今後もご支援ご指導宜しく申し上げます。

楷風会賞受賞者選考に当たって

花崎 和弘

該当年度に一番 activity の高い学術的活動を行った楷風会員に贈られる楷風会賞の 12 回目の受賞者に 3 年連続で、北川博之先生（学内講師）を選考させていただきました。

選考の理由について述べさせていただきます。北川先生は対象となる 2017 年 1 月より 12 月までの 1 年間に、多忙な医局長業務と両立する形で、5 編の筆頭英語論文を Surgical Endoscopy をはじめとする著名な国際誌に発表しました。

北川先生は過去 2 回の楷風会賞受賞を励みとして、ここ数年は筆頭英語論文数が急速に増加し、以前の共著者を含めると比較的論文数が多いという状況とは見違えるほど進化しました。やはり若い時期は筆頭英語論文数が activity の最大指標となります。当科では並川講師に続く第 2 の Academic Surgeon の地位を築きつつあると言っても過言ではありません。また後輩の学会発表や論文作成指導にも熱心に取り組んでおります。温厚な人柄で、多くの医療スタッフからも慕われています。

北川先生は、高知県でただ一人の日本食道学会認定の食道外科専門医です。内視鏡外科手術を駆使した食道外科手術だけでなく、他科との合同手術や当科の緊急手術も積極的に関与しており、病院収益にも多大な貢献をしています。今後とも当科の誇る Academic Surgeon として、若い外科医のお手本になって欲しいと願っています。

北川先生だけでなく、私から若い教室員たちへの花向けの言葉は、「自分が凄と思った時が、凋落の始まり」です。世の中には自分より凄い人は山ほどいます。また慢心は自分の評価を下げ、他人を不快にします。

今回の受賞を謙虚に受け止め、けして驕ることのないように、どうか気を引き締めて、今後とも精進を重ねていってください。期待しています。

第 12 回 Impact Factor 賞 受賞者

Impact Factor を受賞して

並川 努

この度は第 12 回 Impact Factor 賞受賞の機会をいただきまして誠にありがとうございました。花崎教授ならびに同門の先生方に厚く御礼申し上げます。身に余る大変に光栄なことと感激しております。

今回、著名なリンパ節腫脹を伴う胃神経鞘腫についての報告を *Clinical Gastroenterology and Hepatology* に掲載していただくことができました。胃原発腫瘍に占める神経鞘腫の割合は少なく、診断も困難なことがあります。悪性化例は極めて少ないものの所属リンパ節腫大を認めた場合には胃癌、悪性リンパ腫、神経内分泌腫瘍等、他の悪性腫瘍との鑑別を要することになります。近年の内視鏡や放射線診断技術の発達とともに超音波内視鏡下腫瘍生検や、ダイナミック CT による腫瘍の濃染パターンを精緻に検討することにより粘膜下腫瘍においてもその質的診断が向上してきています。神経鞘腫の特徴的な病理組織像に腫瘍周囲のリンパ球浸潤 (lymphoid cuffs) があり、リンパ節腫大との関連性が示唆されますが、今後の症例集積による詳細な検討、新たな診断方法の開発が期待されます。

日常診療のなかでついつい見過ごされるかもしれないささいなことにおいても、常に興味をもって先入観にさいなまれることがないように謙虚な姿勢で臨床にあたりたいと思っております。今後さらに新たな研究に取り組めるように精進して参りたいと存じます。この度は誠にありがとうございました。

Impact Factor 賞受賞者選考に当たって

花崎 和弘

該当年度に最も Impact Factor (IF) の高い雑誌に論文掲載が認められた楷風会員に贈られる IF 賞の 12 回目の受賞者は、3 年連続で並川 努先生となりました。誠におめでとうございます。

選考の理由ですが、選考対象となる 2017 年 1 月より 12 月までに掲載または受理された論文の中から、並川先生の論文 (*Clinical Gastroenterology and Hepatology*) が 2016 年 journal citation report より一番高い IF 値を有していたためです。

並川先生の研究業績は今更言うまでもなく、教室の主要目標である「すべての研究は英語論文で完結」を積極的に推進し、見事に具現化している高知大学でナンバー 1 の Academic Surgeon です。並川先生の頑張りや謙虚さが当科をこのレベルまで引き上げてくれたといつも感謝しています。

毎年 10 編前後の筆頭英語論文を、publish し続けてくれている並川先生のひたむきな努力に対し、改めて敬意を表し、心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

学外 研修報告

高知県立幡多けんみん病院

外科 川西 泰広

2016 春に高知大学外科 1 に入局した川西泰広です。昨年の春から幡多けんみん病院で勤務させていただいております。幡多での近況を報告させていただきます。今年度より幡多けんみん病院の外科は上岡副院長、秋森部長、志賀先生、藤枝、川西の 5 人体制で始まり、5 月から医療センターから来られた徳丸先生（昨年、消化器病専門医を取得されました[㊞]）



を迎えて 6 名のチームとなりました。また、昨年に引き続き、毎週水曜日には高知大学から沖先生、細木病院から尾崎先生に乳腺外来のサポートをしていただき、金曜日は高知大学から前田先生に手術の指導に来ていただいております。

幡多けんみん病院に来てまだ 1 年足らずですが、ようやく仕事には慣れてきました。大学では機会の少なかった救急外来での外科処置や外傷患者の診療、また手術での執刀の機会も増え責任重大ですが、毎日がとても刺激的です。日々の勉強が大切だと身に染みて感じています。

あと何年かは幡多にいると聞いておりますので、地に足をつけて働きます。今年の目標は外科の修練、論文の執筆、新人の勧誘を三本柱として幡多で頑張ります。

高知医療センター

外科 谷岡 信寿

高知医療センターでの外科研修を始めて 1 年半が過ぎました。センターでは若手は半年から 1 年毎にチームをローテートしていて、私は現在乳腺・甲状腺、食道、腎移植グループで診療に当たらせていただいています。扱う臓器がガラッと変わり解剖や周術期管理など勉強しなければならない事は多いですが、最近ではだいぶ仕事にも慣れてきて執刀させていただける機会も増えてきました。

今年の大きな出来事として、10 月に診療部長の志摩先生がご逝去されました。偉大なリーダーを失った科全体への影響は大きく、医療センターの消化器外科は今非常に苦しい時期をむかえています。志摩先生の抜けられた穴を少しでも埋められるよう、尚一層努力して仕事に邁進しようと思っております。

先生方におかれましては、日々の診療でいつもお世話になっております。また学会や講演会などでお会いした時には暖かいお言葉やアドバイスを下さり、身に余る思いです。更に精進して高知の外科医療を高められるよう頑張ります。

今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

2017年4月より近森病院外科で研修をさせていただいています。知識・技術の不足を痛感する毎日ではありますが、厳しくも熱心な指導医・明るいスタッフの皆さんに恵まれて、充実した研修生活を送ることができています。

忙しい中でも初心を忘れず、患者さんの気持ちに寄り添った優しい外科医を目指して、今後も研鑽を積んでいきたいと思っております。

今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

高知県立幡多けんみん病院

外科1に入局して2年、幡多けんみん病院で働き始めて早くも1年が過ぎようとしています。仕事面はもちろん、私生活でも着々と人生経験が豊かになっています（マネーは高くつきました）。

2017年2月から幡多けんみん病院で勤務を開始し、食道から胃、肝胆膵、大腸肛門に至るまで様々な手術を助手として間近に見る機会を頂きました。執刀も、最初は鼠経ヘルニア根治術や腹腔鏡下胆嚢摘出術などから始まり、最近では開腹幽門側胃切除術や結腸右半切除術を経験させて頂きました。見るのと実際に執刀するのでは大きな違いがあることを改めて実感し、前立をして下さる上岡先生、秋森先生、徳丸先生や前田先生にご指導頂きながら、また同期の川西先生と切磋琢磨しながら日々勉強しています。手術だけでなく、病棟や外来業務に加え、内視鏡の研修や月1回大畠先生の小児外科外来見学等の機会も頂いており、大変有難く感じています。

これからも修練を重ね、頼りがいのある外科医になれるよう頑張る所存です。今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。



高知赤十字病院

外科1に入局し、平成28年4月から高知赤十字病院の外科・呼吸器外科で勤務しております。こちらでの勤務も2年目になり、外科の仕事にも徐々に慣れてきました。手術での役割も、1年目はスコピストが中心でしたが、2年目は第一助手の機会が多くなりました。外科医として、まだまだ未熟ではありますが、一步一步前に進んでいけるよう頑張っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

学外 近況報告

高知県立幡多けんみん病院

外科 志賀 舞

私は、2017年4月、幡多けんみん病院に赴任しました。小学4年生と小学2年生の息子を皮膚科医である夫に任せての単身赴任となり、医局としても、幡多けんみん病院としても前例がないことでした。赴任前から、上岡先生、花崎教授、北川医局長が協議してくださり、土日は完全フリーで自宅に帰ることを認めていただきました。

幡多けんみん病院では、救急外来はもちろん新患外来も担当させていただきました。消化器がんおよび乳がんの患者さんを、初診から手術、術後の化学療法まで継続して診療に当たらせていただき、大変勉強になりました。手術については、4月から9月の半年間で、胃がん6例、大腸がん9例を含む30例の執刀を経験させていただきました。

なぜ半年間かという、実は6月末に妊娠が発覚し、10月以降は執刀を控えさせて頂いたからです。妊娠を報告する際には、お叱りも覚悟していましたが、上岡先生は、「おめでとうございます。」という第一声とともに、「なんでも気楽に話してください。」とおっしゃって、私の申し出に合わせて7月から宿直免除、10月から時間外待機の免除としてくださいました。上岡先生をはじめ、私の不安定な仕事をフォローしてくださった秋森先生、徳丸先生、川西先生、藤枝先生に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

予定より短い赴任となり、関係者の方々にはご負担をおかけすることとなりましたが、私にとって幡多けんみん病院での研修は、大変貴重な診療経験となりました。

医療法人仁栄会 島津病院

外科 西家 佐吉子

平素より花崎教授をはじめ外科学講座外科1教室の先生方には大変お世話になり、この場をお借りし心より御礼申し上げます。

島津病院は2017年にやっと全面的に新築工事が完了致しました。病院が位置する地域では、南海トラフの巨大地震が起こった場合には3-4mの津波予測となっているため、地震・津波に強い病院作りを目指しました。長時間の浸水にも耐えられるよう、管理棟と本館との間を空中通路でつないでいます。透析患者さんが震災などの非常時に透析を受けられないことは、命を落とすことにもなりかねません。透析治療では、大量の水を必要とするため、井戸を掘るなどその水の確保にも力をいれています。

地震から津波が到達までには少し時間があるとはいえ、透析中の患者さんの避難は本当に大変ですので、地震が来る前に新病院が完成して一安心しております。

2017年度の手術件数は、透析シャント造設などのバスキュラーアクセス関連、鼠径ヘルニア手術、腹膜透析に用いるCAPDカテーテル留置術を中心に335例でした。

透析技術の進歩の結果、透析を長期間行うことが可能となってきています。それに伴いバスキュラーアクセス困難例も増えてきており、これからの課題となっています。

これからも地域に密着した医療を目指して頑張っていきたいと考えております。

今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

本年も久留米大学外科学講座小児外科部門にてお世話になり、約300例の手術に関して執刀やマネージメントに携わらせていただきました。また今年の10月から外来医長を担うようになりました。前医長に引き継ぎ、近隣の小児疾患や重症心身障害児を扱う病院との連携をとることで、予定手術待機や急性期疾患に関してもスムーズに治療が行えるようになってきました。少子化の昨今ですが、対象疾患や呼吸器、泌尿器疾患に治療の幅を広げることで、過去年よりも手術件数を増加させることができている。

学術活動としては、キプロスで行われた24th Pediatric Colorectal Clubで低位鎖肛に対するanterior sagittal anorectoplastyの治療と長期機能評価を発表させていただきました。また夏休みを利用してスイスのバーセルWorld congress of Surgery 2017に参加し、国際外科代謝栄養学会(IASMEN)に胆道閉鎖症の周術期酸化ストレス評価について報告し、本内容はBest paper prizeに選んでいただきました。論文は以前から取り組んできた唾液中pepsin含有量を測定した胃食道逆流症の診断への応用を報告しました(Hashizume N, et al. Brain Dev. 39:703-709 2017)。また鎖肛と会陰部脂肪腫の稀な合併奇形の治療報告をさせていただきました(Hashizume N, et al. Pediatr Int. in press)。

基礎実験に関しては本年度より2017年度で科研費研究が終わりますが、なかなか思うような結果が出ず、そろそろ報告期限で少し困っています。一方で、日本静脈経腸栄養学会からアスタキサンチンの肝線維化抑制効果に対しての基礎研究助成金が支給されることとなり、もう少し動物実験は続けられそうです。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い致します。

がん研有明病院での外科研修を開始してから2年が経とうとしています。現在までに胃外科、大腸外科、肝胆膵外科を終了し、2017年10月から食道外科をローテートしています。

この2年間の外科手技としてNCDの登録から振り返ってみますと胃外科53例(第一担当:29例)、大腸外科73例(23例)、肝胆膵外科70例(29例)の手術に参加することができました。がん研で多数の手術症例を経験し、これまではなかなか思うようにいかず、疑問に思っていた鏡視下手術での視野の作り方、郭清、体腔内再建の方法に関して随分と理解できたように思います。また、仙骨合併切除の骨盤内臓全摘術、側方郭清、肝膵十二指腸切除術、IVC合併切除の肝切除術、後腹膜一括郭清の膵体尾部切除術、前割SMA周囲郭清先行の膵頭十二指腸切除術、腹腔鏡下の肝切除術、膵頭十二指腸切除術、食道癌に対する前縦郭気管孔形成術(Grillo手術)等のHigh volume centerでないと経験が難しい症例を通じて解剖の理解を深めることができました。

学術面では、2016年日本内視鏡外科学会：要望演題「腹腔鏡下幽門保存胃切除術の手術成績についての検討」、日本臨床外科学会：シンポジウム「超高齢者の腹腔鏡下胃切除術における手術リスク評価E-PASS scoring systemの検討」の発表を行いました。今後は、2018年日本外科学会：Internationalビデオワークショップ「ICG蛍光法による肝区域ナビゲーションを用いた腹腔鏡下解剖学的肝切除の工夫」、日本消化器外科学会：要望演題「狭窄を伴う進行食道癌における術前強制栄養と術前治療の安全性の検討」を発表予定です。そして、これらの発表については併せて論文化を進

めております。

このようながん研での貴重な経験を与えてくださった高知大学の医局に感謝しつつ、この経験を十二分に生かしこれらの知識と技術を今後確実なものとするために、高知に戻りました暁には、さらに積極的に自分の手を動かし、技術と経験を確かなものとして実践を積んでいきたいと思っております。

また、がん研で勉強できたことで全国から集まっている優秀な同期からも多くの刺激を受けることができました。今年は消化器外科専門医、消化器病専門医、2年以内には内視鏡外科技術認定医の取得を目指したいと考えており、全国の同期と切磋琢磨していく思いです。

最後に私事ではございますが、去年7月に待望の第一子を授かることが出来ました。仕事でのステップアップとともに父親、家庭人としても一家を支えるべく働き方の質を高め、子どもの成長をそばで感じ楽しめる生活を過ごせるように努力していきたいと思っております。

社会医療法人近森会 近森病院

外科 宗景 匡哉

『派遣社員家を買う』

それは突然の辞令であった。仕事納めも迫った2016年12月のとある昼食中、上司であり兄貴分である（本人は認めたがらないが実際に実の兄とは同級生である）医局長から‘来年は近森ね’と告げられた。実際高知出身でありながら近森病院といえば救急すごい病院という程度の認識しかなく、肝胆膵領域に偏った自分ではやっていけなさそうだけど冗談でしょと感じていた。されど時間は平等にまた着実に過ぎるもので、次女の誕生もあり、まさしく光陰矢のごとし2017年4月を迎えることとなった。

近森病院着任後は電子カルテの操作から病棟、ER、外来の位置関係までわからず、それこそ右も左もわからない状態であった。特に2台の本館エレベーターの動きには今でも翻弄されている。しかし、親切な上司や看護師、栄養士、薬剤師、歯科衛生士、PT、OT、ST、MSWなどパラメディカルスタッフに巡り合えたこともあり徐々に慣れることができた。大学病院時代とは違って看護師以外のパラメディカルからも意見が出されてくることは面白さを感じた。また、パラメディカルは病棟担当の配置が手厚く、その意識も高いように感じた。

NSTに力を入れていることや、栄養療法といえば近森病院といったことは実際着任するまで知らなかった。しかし、消化器外科学会に出張した際に会場でたまたま隣の席にいらっしゃったベテランの先生にも近森病院は栄養世界では有名で参考になっていることも教えていただいた。

近森病院では消化器外科を中心に様々な手術の執刀機会をいただいた。患者さんの背景も様々で患者さんから学ぶことも多く、昔の高名な先生方はよく言ったものだという日々を過ごしている。

ところで、今年の関心事は国の働き方の検討会において、すぐに取り組むべき課題として医師の在院時間調査があげられた。自分たちの労働環境はさらにめまぐるしく変わっていくのであろう。これからの時代を生き抜くためいろいろ考えることが増えるものだ。

私生活では家を買って何とか引っ越しとはなったが、貯金ができたり、詐欺に引っかかったりはなく（詐欺被害に気付かない可能性は残っているが）そろそろ1年が過ぎようとしている。辞令は突然に本年もよろしく願いいたします。

医局事務より

事務補佐員 川村 麻由

2018年を迎え今年で5年目となりました。まだまだ花崎先生にご指導いただく日々ですが、医局の先生方や事務の方々に支えていただきながら、迎えることが出来たと本当に感謝しております。この場をお借りいたしまして、心より御礼申し上げます。5年目という節目の年を迎え、あらためて襟を正し、念頭に立てた自分自身の目標に向けて、着実に前進し必ず目標達成していきたいと思います。

昨年1年を振り返ってみますと、多くの気づきを得られた1年となりました。4月には宇都宮先生が入局され、教室にとって年度初めの良いスタートとなりました。また、同月には花崎先生がセンター長として、日本初の光線医療技術を基盤とした「光線医療センター」が開設されました。この技術は高知大学医学部で誕生し、高知ブランドとして、国内のみならず世界に向けて今後発信していくということで、教室としても、高知県民の私個人にとっても、大変誇らしく嬉しいニュースで今後が益々楽しみです。

また、11月には来年(2019年)開催の第81回日本臨床外科学会総会に向けて、本学会総会にも参加し研修させていただきました。学会では、初めて目や耳にするものばかりがとても新鮮で、学会全体を見ることにより、高知開催のイメージにより近づくことが出来ました。学会では、研究論文を発表し業績を挙げることは勿論ですが、コミュニティに属する先生方が一堂に会して、それぞれの最新の研究結果をFace to Faceで報告・議論し合っており、そういったコミュニティを通して将来、世の中で役に立つ技術を創出している大変重要な会だということや、学会の開催場所により、また違った特色が出ていることが分かりました。

このような貴重な機会を与えていただき、本当に有難く感じております。研修で勉強させていただいたことを十二分に活かし、2019年の高知開催まで総力を上げ、全力で取り組んで参りたいと思います。高知の「美味しい食べ物」や「豊かな自然」、高知のイメージである皆が家族のような「笑顔」「幸せ」「安全・安心」「癒し」「親近感」と、心温まる高知の魅力を存分に出した学会のお手伝いが出来れば幸せです。昨年の反省点や克服すべき課題をクリアして、志を高くもち、日々努力して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

事務補佐員 菅野 真由

2回目の年報になりました。教室での仕事にも少しずつ慣れ、新しい業務にも携わらせていただくことも増え、充実しておりました。同時に勉強不足だと感じることや、もっと上手くやれたのではと思うことも多々ありました。業務が円滑に行えるよう改善し次に生かしていきたいと考えております。

この一年は自分自身も妊娠出産を終え大きな変化の年でした。体の丈夫さには自信があったのですが、過信しすぎたのか切迫早産で3ヵ月の自宅安静生活を送ることになりました。振り返れば短く感じますが、一日が本当に長く感じる3ヵ月でした。急遽お休みを頂くことになり、教室員の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。おかげさまで無事娘を出産することができましたので改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。今は言葉の通じない娘の育児に奮闘しております。

復帰はもう少し先になりますが、頼れる親類も近くにいない為、仕事、家事、育児の両立ができるかという不安はありますが、皆様のお力を借りながら頑張りたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

事務補佐員 山崎 絵里佳

外科1の事務補佐員として医局で働かせていただくようになり、1年が経ち、2年目に入りました。今まで経験したことのない医局での仕事に少しずつ慣れることができてきたのは、花崎教授をはじめ先生方、職員の皆様方、また関連病院の皆様方のおかげです。心より御礼申し上げます。また、医局での仕事に慣れるだけではなく、自ら考え、効率的に誠意を持って働くことの大切さを、皆様方から教えていただいております。改めて感謝申し上げます。1年が経っても不甲斐ないことの方が多く、教えていただいていることをきちんと吸収できているだろうかと自問自答の日々であります。そのような中、自分の非力さを日々痛感しておりますが、素晴らしいお手本となる方々に囲まれていることに感謝をし、常に向上心を持ち日々精進して参りたいと思っております。公私にわたり、これまでの1年よりも少しでも成長して参りたいと思っておりますので、変わらぬご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

事務補佐員 大原 麻希

大原麻希と申します。こちらでお世話になり始めて、あっという間に一年が経とうとしています。短い期間で、NCDの入力や出張旅費の処理、施設などの更新、年報や楷風会の準備など様々な事に携わらせていただき、日々勉強させていただいております。

以前から仕事などで医師の方々と関わるが多かった私は、医療の現場に興味がありました。実際に自分の目でその世界を見てみたいと思っておりました。

その自分が見たかった世界で、しかも前職を通して自分がとてもやりがいを感じた秘書という仕事を、また新しく勉強できるチャンスをいただけたことは本当に幸運で大変嬉しく思っています。

けれど、結婚し母になって初めてする仕事は3足のわらじを履いているような状態です。毎日歩いているのやらないのやら。失敗したな、そんな風に落ち込む時は、エジソンの「失敗ではなく、これではダメだという発見」この言葉を思い出すようにしています。

いつも温かく見守ってくださる教授をはじめ、先生方、秘書の先輩方、実務を教えてくださいな川村さんと山崎さんには感謝しかありません。これからもご指導の程宜しくお願い致します。

乳腺センター 事務補佐員 辻岡 織江

平成23年5月より、外科1杉本先生の事務をさせていただくこととなって、7年目に入りました。平成27年には乳腺センターが設立され、環境が変わる中、不安もありましたが日々の仕事に追われながらも周囲の方々に助けられながら仕事をしています。そしてそれを温かい目で見守ってくださっている先生方、ありがとうございます。

7年目とはいえ慣れることなく、正確に仕事を処理し、効果の向上を常に考えて行動することを心掛けながら、先生方のサポートや環境づくりをしていけるよう日々精進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

手術件数

● 手術件数調査票（2017年1月～12月）

高 知 大 学		
手 術		
		鏡視下手術
甲状腺	27	
乳腺	171	
肺、縦隔	1	1
食道	26	17
胃、十二指腸	62	17
肝臓	45	4
胆道	57	37
膵臓	13	1
脾臓	2	1
虫垂	10	9
ヘルニア	48	9
イレウス	18	3
小腸	9	3
大腸	100	85
肛門	4	4
小児	84	32
その他	25	7
合 計	702	230

● 手術件数調査票 (2017年1月～12月)

病院名	手術	頸部	胸部					腹部										他		合計			
		甲状腺・耳下腺・他	乳腺	肺	縦隔	食道	心・大血管・末梢神経	胃・十二指腸	肝	胆道	膵	脾	虫垂	ヘルニア	イレウス	小腸	大腸	肛門	小児		腎・膀胱・前立腺	他	
あき総合病院	全麻	10	16	13				7		52			11	16	13		25					288	451
	うち鏡視下	1		6						37													44
	腰麻																						
愛宕病院	全麻							1	0	3	0	0	1	5	(腸閉塞) 1	3	8	1				5	28
	うち鏡視下									3			1				2						6
	腰麻																						
いずみの病院	全麻	1	7					2		3				17	1		7					3	41
	うち鏡視下							1		3							5						9
	腰麻																						
渭南病院	全麻			1				1					1	1			2	3				2	11
	うち鏡視下																						
	腰麻												3	9									12
くぼかわ病院	全麻												6	1			7	1			1	208	224
	うち鏡視下																1						1
	腰麻													8								24	32
くろしお病院	全麻							1		6			4	10	5	1	2						29
	うち鏡視下																						
	腰麻																	2				10	12
高知生協病院	全麻	1	23					9		9			5	9	2		12						70
	うち鏡視下									7			5	1			7						20
	腰麻													4				3					7
島津病院	全麻																						0
	腰麻													3									3
	局麻													3								268	271

病院名	手術	頸部	胸部					腹部											他		合計			
		甲状腺・耳下腺・他	乳腺	肺	縦隔	食道	心・大血管・末梢神経	胃・十二指腸	肝	胆道	膵	脾	虫垂	ヘルニア	イレウス	小腸	大腸	肛門	小児	腎・膀胱・前立腺		他		
竹下病院	全麻		1					1	1							1			5				116	125
	うち鏡視下							1											4					5
	腰麻															2				11			12	25
田野病院	全麻							3		17			3	5		4	15	10			2	18	77	
	うち鏡視下									9			1	4			1							15
	腰麻																	9					9	
近森病院	全麻	2	3	42	1	1		71	17	113	8	4	47	59	25	32	66	38				14	543	
	うち鏡視下			32				16	4	104		2	42	25	4	3	14					2	248	
	腰麻													12									12	
千葉西総合病院	全	4	23	38	5	12	599	76	37	142	30	5	90	151	37	91	196	10	23	591	59	2219		
	うち鏡視下			33	5	5		32	10	130	2	1	82	98	24	23	171		19	133	44	812		
	腰麻																	1					1	
仁淀病院	全麻		1					3		7			2	10			7					2	32	
	うち鏡視下							2		7			2	2			6						19	
	腰麻													9				3					12	
野市中央病院	全麻							1						5			1						7	
	うち鏡視下																							
	腰麻																							
幡多けんみん病院	全麻	1	32	5		6		50	16	88	8	1	36	70	19	18	90	6	[12]			30	476	
	うち鏡視下			5		6		9	2	79			2	2	1	1	33						140	
	腰麻																							
細木病院	全麻	5	52					3		6			6	2			13					6	93	
	うち鏡視下									6													6	
	腰麻													25				14					39	

● 検査・処置

病院名	手術	内視鏡			治療手技								血管	造影
		食道・胃・十二指腸	大腸	気管支	(EMR・EVL・硬化療法) 食道	(ポリペクトミー・EMR) 食道	(ポリペクトミー・EMR) 胃	(ポリペクトミー・EMR) 大腸	(ERCP・EST・ERBD/ ENBD・PTCD・PTGBD) 胆道・肝	RFA・PMCT・PEI 経皮的局所治療	IVR・TAE・動注	ステント留置 (気管・食道・胆道等) (腎カテー)	腹部	心臓・血管・その他
あぎ総合病院	外科	73	45				5	4			9			
	他科	616	259	16		1	27	2			152		300	
	計	689	304	16		1	32	6			161		300	
いずみの病院	外科・他	528	245	1			53	13			23		56	
	計	528	245	1			53	13			23		56	
渭南病院	外科	167	81				7	7						
	他科	137	35	2			10							
	計	304	116	2			17	7						
くぼかわ病院	外科	62	60				2	1						
	他科	295	151				39	16			28			
	計	357	211				41	17			28			
くろしお病院	外科・他	854	257			1	29	36		1		6		
	計	854	257			1	29	36		1		6		
高知生協病院	外科・他	1755	440		1	4	50	11			1			
	計	1755	440		1	4	50	11			1			
島津病院	外科	124	27				2					18	217	
	他科													
	計	124	27				2					18	217	
竹下病院	外科	70	34				8							
	他科	20											53	
	計	90	34				8						53	

病院名	手術	内視鏡			治療手技								血管	造影
		食道・胃・十二指腸	大腸	気管支	(EMR・EVL・硬化療法) 食道	(ポリペクトミー・EMR) 食道	(ポリペクトミー・EMR) 胃	(ポリペクトミー・EMR) 大腸	ERCP・EST・ERBD/ ENBD・PTCD・PTGBD 胆道・肝	RFA・PMCT・PEI 経皮的局所治療	IVR・TAE・動注	ステント留置 (気管・食道・胆道等) (腎カテー)	腹部	心臓・血管・その他
田野病院	外科	290	108		7			39	24			3	17	3
	他科	88	31											
	計	378	139		7			39	24			3	17	3
近森病院	外科・他	2875	1673	111	38		10	184	674	52	390	18	19	1717
	計	2875	1673	111	38		10	184	674	52	390	18	19	1717
千葉西総合病院	外科	326	141	10				25		4	11		6	
	他科	8863	2181	43	5	3	74	920	291		395	168	33	9942
	計	9189	2322	53	5	3	74	945	291	4	406	168	39	9942
仁淀病院	外科	113	100	5			6	5	7			1		
	他科	306	132				6	16	1					
	計	419	232	5			12	21	8			1		
野市中央病院	外科	101												
	他科	200	154				1	13						
	計	301	154				1	13						
細木病院	外科・他	1887	348	5			3	63	25					
	計	1887	348	5			3	63	25					

業績：論文発表（2017.1～2017.12）

[英語論文]

著書

- 1) Kazuhiro Hanazaki, Masaya Munekage, Hiroyuki Kitagawa, Takuhiro Kosaki, Toshiji Saibara, and Tsutomu Namikawa
Molecular Diagnosis and Targeting of Biliary Tract Cancer
© Springer Nature Singapore Pte Ltd. 2018 Y.Shimada, K.Yanaga (eds.) , Molecular Diagnosis and Targeting for Thoracic and Gastrointestinal Malignancy, Current Human Cell Research and Applications, https://doi.org/10.1007/978-981-10-6469-2_7 Capter7 pp 111-125

論文

- 1) Kitagawa H, Namikawa T, Hanazaki K
Neck Dissection and Thoracoscopic Esophagectomy in Esophageal Cancer with Aberrant subclavian Artery
Anticancer Res 37 (7) Jul:3787-3790 2017 (IF 1.895)
- 2) Hiroyuki Kitagawa , Tsutomu Namikawa , Jun Iwabu and Kazuhiro Hanazaki
Gastric Tube Reconstruction with Superdrainage Using Indocyanine Green Fluorescence During Esophagectomy
in vivo 31:1019-1021, 2017 (IF 0.832)
- 3) Tsutomu Namikawa, Eri Munekage, Maho Ogawa, Toyokazu Oki, Masaya Munekage, Hiromichi Maeda, Hiroyuki Kitagawa, Takeki Sugimoto, Michiya Kobayashi and Kazuhiro Hanazaki
Clinical presentation and treatment of gastric metastasis from other malignancies of solid organs
Biomed Rep 7 (2) Aug:159-162. Epub 2017 Jul 6 (IF -)
- 4) Tsutomu Namikawa, Michiya Kobayashi, and Kazuhiro Hanazaki
Gastric schwannoma With Regional Lymphadenopathy
Clin Gastroenterology and Hepatology 15 (9) Sep:e145-e146. Epub 2017 Feb 3 (IF 7.398)
- 5) Hiroyuki Kitagawa, Tsutomu Namikawa, Masaya Munekage, Kazune Fujisawa, Yoshihiro Kawanishi, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Preoperative patient-related factors associated with prognosis after esophagectomy for esophageal cancer
Esophagus. 2017 Jun 28 [Epub ahead of print 1-6] (IF 0.773)
- 6) Tsutomu Namikawa, Michiya Kobayashi, and Kazuhiro Hanazaki
Unusual Thickened Gastric Folds in a Patient With Breast Cancer
Gastroenterology 152 (1) Jan:e8-e9. Epub 2016 Nov 26 2017 (IF 18.392)
- 7) Tsutomu Namikawa, Masaya Munekage, Hiroyuki Kitagawa, Tomoaki Yatabe, Hiromichi Maeda, Yuuki Tsukamoto, Kenichi Hirano, Takuji Asano, Yoshihiko Kinoshita, Kazuhiro Hanazaki
Comparison between a novel and conventional artificial pancreas for perioperative glycemic control using a closed-loop system
J Artif Organs 20 (1) Mar:84-90. Epub 2016 Sep 20 2017 (IF 1.350)

- 8) Tsutomu Namikawa, Yasuhiro Kawanishi, Kazune Fujisawa, Eri Munekage, Masaya Munekage, Hiromichi Maeda, Hiroyuki Kitagawa, Takuhiro Kohsaki, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Juxtapapillary Duodenal Diverticulum Impacted with Enterolith
J Gastrointest Surg 21 (5) Mar:920-922. Epub 2016 Sep 21 2017 (IF 2.963)
- 9) Hiroyuki Kitagawa, Tsutomu Namikawa, Tomoaki Yatabe, Masaya Munekage, Fumiyasu Yamasaki, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Effects of a preoperative immune-modulating diet in patients with esophageal cancer: a prospective parallel group randomized study
Langenbecks Arch Surg 402 (3) May:531-538. Epub 2017 Mar 10 2017 (IF 2.203)
- 10) Tsutomu Namikawa, Eri Munekage, Masaya Munekage, Hiromichi Maeda, Tomoaki Yatabe, Hiroyuki Kitagawa, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Subcutaneous metastasis arising from gastric cancer: A case report
Mol Clin Oncol 6 (4) Apr:515-516. Epub 2017 Feb 24 (IF -)
- 11) Tsutomu Namikawa, Yasuhiro Kawanishi, Kazune Fujisawa, Eri Munekage, Masaya Munekage, Hiromichi Maeda, Hiroyuki Kitagawa, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Gastric adenocarcinoma at the anastomotic site 50 years after gastrojejunostomy: A case report
Mol Clin Oncol 7 (2) Aug:249-251. Epub 2017 Jun 29 (IF -)
- 12) Mai Shiga, Hiromichi Maeda, Koji Oba, Ken Okamoto, Tsutomu Namikawa, Kazune Fujisawa, Keiichiro Yokota, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Safety of laparoscopic surgery for colorectal cancer in patients over 80 years old: a propensity score matching study
Surg Today 47 (8) Aug:951-958. Epub 2017 Jan 27 (IF 1.745) (学位論文)
- 13) Kazumi Kawase, Kyoko Nomura, Ryuji Tominaga, Hirotaka Iwase, Tomoko Ogawa, Ikuko Shibasaki, Mitsuo Shimada, Tomoaki Taguchi, Emiko Takeshita, Yasuko Tomizawa, Sachiyo Nomura, Kazuhiro Hanazaki, Tomoko Hanashi, Hiroko Yamashita, Norihiro Kokudo, Kotaro Maeda
Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part 1: Working style
Surg Today. 2017 Jun 20 [Epub ahead of print 1-11] (IF 1.745)
- 14) Kazumi Kawase, Kyoko Nomura, Ryuji Tominaga, Hirotaka Iwase, Tomoko Ogawa, Ikuko Shibasaki, Mitsuo Shimada, Tomoaki Taguchi, Emiko Takeshita, Yasuko Tomizawa, Sachiyo Nomura, Kazuhiro Hanazaki, Tomoko Hanashi, Hiroko Yamashita, Norihiro Kokudo, Kotaro Maeda
Analysis of gender-based differences among surgeons in Japan: results of a survey conducted by the Japan Surgical Society. Part. 2: personal life.
Surg Today. 2017 Sep 18 Epub ahead of print (IF 1.745)
- 15) Tsutomu Namikawa, Yasuhiro Kawanishi, Kazune Fujisawa, Eri Munekage, Masaya Munekage, Takahito Sugase, Hiromichi Maeda, Hiroyuki Kitagawa, Tatsuya Kumon, Makoto Hiroi, Michiya Kobayashi and Kazuhiro Hanazaki
Metachronous solitary splenic metastasis arising from early gastric cancer: a case report and literature review.
BMC Surg. 2017 Aug 29; 17 (1) :96 (IF 1.42)
- 16) Sunao Uemura, Hiroyuki Matsubayashi, Yoshimi Kiyozumi, Katsuhiko Uesaka, Yusuke Yamamoto, Keiko Sasaki, Masato Abe, Kenichi Urakami, Masatoshi Kusahara, Ken Yamaguchi
Pancreatic adenocarcinoma with a germline PTEN p.Arg234Gln mutation
Familial Cancer Published online: 28 July 2017 (IF 1.660)

- 17) Sunao Uemura, Yusuke Yamamoto, Teiichi Sugiura, Yukiyasu Okamura, Takaaki Ito, Ryo Ashida, Takashi Miyata, Yoshiyasu Kato, Katsuhisa Ohgi, Atsushi Kohga, Tsuneyuki Uchida, Shusei Sano, Keiko Sasaki and Katsuhiko Uesaka
Distal Pancreatectomy for a Solid-Pseudopapillary Neoplasm of the Pancreas with the Preoperative Suspicion of Major Arterial Involvement:A Case Report
Journal of Clinical Case Reports 2017 Vol.7 Issue5 (IF-)
- 18) Hayashi H, Takamura H, Gabata R, Makino I, Ohbatake Y, Nakamura S, Miyashita T, Tajima H, Hanazaki K, Ohta T
Induction of Artificial Pancreas in Liver Transplant Recipients:Preliminary Experience with an Insightful Message.
Ann Transplant.2017 Oct 3;22:590-597 (IF 1.252)
- 19) Tsutomu Namikawa, Yasuhiro Kawanishi, Kazune Fujisawa, Eri Munekage, Jun Iwabu, Masaya Munekage, Hiromichi Maeda, Hiroyuki Kitagawa, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Serum carbohydrate antigen 125 is a significant prognostic marker in patients with unresectable advanced or recurrent gastric cancer
Surg Today Published online:17 October 2017 (IF 1.745)
- 20) Hiroyuki Kitagawa, Tsutomu Namikawa, Jun Iwabu, Kazune Fujisawa, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Comparison between neck-first approach and thoracic approach during thoracoscopic esophagectomy
Langenbecks Arch Surg Published online:07 November 2017 (IF 2.203)
- 21) Hokimoto N, Sugimoto T, Namikawa T, Funakoshi T, Oki T, Ogawa M, Fukuhara H, Inoue K, Sato T, Hanazaki K
A Novel Color Fluorescence Navigation System for Intraoperative Transcutaneous Lymphatic Mapping and Resection of Sentinel Lymph Nodes in Breast Cancer: Comparison with the Combination of Gamma Probe Scanning and Visible Dye Methods.
Oncology. 2017 Nov 10. Epub ahead of print. (IF:2.262)
- 22) Susumu Tsuda, Hiromichi Maeda, Sunao Uemura, Toshichika Kanagawa, Sachi Tsuda, Toyokazu Akimori, Yuki Fujieda, Norihito Kamioka, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Sarcomatoid combined hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma of liver with spontaneous intra-tumor bleeding: a case report
Ann.Cancer Res.Ther.Vol 25, No.2, pp.77-80, 2017 (IF -)
- 23) Hiromichi Maeda, Ken Okamoto, Haruka Maehara, Tsutomu Namikawa, Satoru Tamura, Makoto Hiroi, Kazuhiro Hanazaki, Michiya Kobayashi
Laparoscopic resection of villous adenoma of the appendix
Ann.Cancer Res.Ther.Vol.25, No.2, pp.44-47.2017 (IF -)
- 24) Mai Shiga, Hiromichi Maeda, Ken Okamoto, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
A Long-term survival due to repeated surgical resections for recurrent retroperitoneal liposarcoma
Ann.Cancer Res.Ther.Vol.25, No.2, pp.52-55, 2017 (IF -)
- 25) Yuki Fujieda, Hiromichi Maeda, Toyokazu Akimori, Norihito Kamioka, Tsutomu Namikawa, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
R0 resection of Stage IV HER2-positive gastric cancer after the first-line chemotherapy: a case of successful conversion therapy
Ann.Cancer Res.Ther.Vol. 25, No. 2, pp. 60-62, 2017 Background (IF -)

- 26) Masaya Munekage, Hiromichi Maeda, Tsutomu Namikawa, Takuhiro Kosaki, Atsushi Kigi, Makoto Hiroi, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Neuroendocrine tumor within main pancreatic duct: a case report
Ann.Cancer Res.Ther.Vol. 25, No.2, pp.63-66, 2017 (IF -)
- 27) Akimori Toyokazu, Hiromichi Maeda, Norihito Kamioka, Toshichika Kanagawa, Susumu Tsuda, Sachi Tsuda, Atsunori Takeshita, Michiya Kobayashi, Kazuhiro Hanazaki
Long-term disease-free survival after resection of recurrent tumor of esophageal cancer with surrounding multiple visceral organs:a case report
Ann. Cancer Res. Ther.Vol. 25, No.1, pp.12-14, 2017 (IF -)
- 28) Hiromichi Maeda, Tsutomu Namikawa, Ken Okamoto, Eri Munekage, Makoto Toi, Makoto Hiroi, Atsunori Takeshita, Kazuhiro Hanazaki, Michiya Kobayashi
Dilation and stasis:a rare but important late complication of jejunal pouch interposition after proximal gastrectomy
Ann.Cancer Res. Ther. Vol. 25, No.1, pp.17-21, 2017 (IF -)
- 29) Toshichika Kanagawa, Hiromichi Maeda, Ken Okamoto, Yoichi Ishikawa, Toyokazu Akimori, Norihito Kamioka, Takashi Usui, Tsutomu Namikawa, Kazuhiro Hanazaki, Michiya Kobayashi
Lessons learnt from a case of enterolithotomy for gallstone ileus of the jejunum
Ann.Cancer Res.Ther.Vol. 25, No.1, pp. 38-40, 2017 (IF -)
- 30) Hiromichi Maeda, Ken Okamoto, Michiya Kobayashi
Adaptation of robotic surgery for colorectal cancer in a regional university
Ann.Cancer Res.Ther.Vol. 25, No.2, pp.81-82, 2017 (IF -)
- 31) Tanaka H, Kanda M, Morita S, Taguri M, Nishikawa K, Shimada M, Muguruma K, Koeda K, Takahashi M, Nakamori M, Konno H, Tsuji A, Hosoya Y, Shirasaka T, Yamamitsu S, Sowa M, Kitajima M, Okajima M, Kobayashi M, Sakamoto J, Saji S, Hirakawa K.
Randomized phase II study of daily and alternate-day administration of S-1 for advanced gastric cancer (JFMC43-1003) .
Int J Clin Oncol. 2017 Dec;22 (6) :1052-1059. Epub 2017 Jun 30. (IF 2.064)
- 32) Tsuji Y, Baba H, Takeda K, Kobayashi M, Oki E, Gotoh M, Yoshida K, Shimokawa M, Kakeji Y, Aiba K.
Chemotherapy-induced nausea and vomiting (CINV) in 190 colorectal cancer patients: a prospective registration study by the CINV study group of Japan.
Expert Opin Pharmacother. 2017 Jun;18 (8) :753-758. Epub 2017 Apr 21. (IF:3.894)
- 33) Maehara Y, Shirabe K, Kohnoe S, Emi Y, Oki E, Kakeji Y, Baba H, Ikeda M, Kobayashi M, Takayama T, Natsugoe S, Haraguchi M, Yoshida K, Terashima M, Sasako M, Yamaue H, Kokudo N, Uesaka K, Uemoto S, Kosuge T, Sawa Y, Shimada M, Doki Y, Yamamoto M, Taketomi A, Takeuchi M, Akazawa K, Yamanaka T, Shimokawa M.
Impact of intra-abdominal absorbable sutures on surgical site infection in gastrointestinal and hepatobiliary-pancreatic surgery: results of a multicenter, randomized, prospective, phase II clinical trial.
Surg Today. 2017 Sep;47 (9) :1060-1071. Epub 2017 Feb 23. Review. Erratum in: Surg Today. 2017. Sep 27 (IF:1.745)
- 34) Honda M, Oba K, Akiyoshi T, Maeda H, Kashiwabara K, Kanda M, Mayanagi S, Aoyama T, Hamada C, Sadahiro S, Fukunaga Y, Ueno M, Sakamoto J, Saji S, Yoshikawa T.
Development and validation of a prognostic nomogram for colorectal cancer after radical resection based on individual patient data from three large-scale phase III trials.
Oncotarget. 2017 Oct 12;8 (58) :99150-99160. (IF:5.168)

- 35) Maeda H, Kashiwabara K, Aoyama T, Oba K, Honda M, Mayanagi S, Kanda M, Hamada C, Sadahiro S, Sakamoto J, Saji S, Yoshikawa T.
Hazard rate of tumor recurrence over time in patients with colon cancer: implications for postoperative surveillance from three Japanese Foundation for Multidisciplinary Treatment of Cancer (JFMC) clinical trials.
J Cancer. 2017 Oct 23;8 (19) :4057-4064. (IF:2.916)
- 36) Aoyama T, Kashiwabara K, Oba K, Honda M, Sadahiro S, Hamada C, Maeda H, Mayanagi S, Kanda M, Sakamoto J, Saji S, Yoshikawa T.
Clinical impact of tumor location on the colon cancer survival and recurrence: analyses of pooled data from three large phase III randomized clinical trials.
Cancer Med. 2017 Nov;6 (11) :2523-2530. (IF:3.362)
- 37) Aoyama T, Oba K, Honda M, Sadahiro S, Hamada C, Mayanagi S, Kanda M, Maeda H, Kashiwabara K, Sakamoto J, Saji S, Yoshikawa T.
Impact of postoperative complications on the colorectal cancer survival and recurrence: analyses of pooled individual patients' data from three large phase III randomized trials.
Cancer Med. 2017 Jul;6 (7) :1573-1580. (IF:3.362)
- 38) Kitagawa H, Namikawa T, Iwabu J, Fujisawa K, Uemura S, Tsuda S, Hanazaki K.
Assessment of the blood supply using the indocyanine green fluorescence method and postoperative endoscopic evaluation of anastomosis of the gastric tube during esophagectomy.
Surg Endosc. 2017 Sep 15. [Epub ahead of print]

[日本語論文]

著書

- 1) 花崎和弘 (分担)
第3部 1 漢方薬の体内動態
Kampo Science Visual Review 漢方の科学化、北島政樹総監修、ライフ・サイエンス、pp154-162 (235) 3月

論文

- 1) 宗景匡哉、花崎和弘
膵・消化管神経内分泌腫瘍
イヤート TOPICS 2017-2018 第7版、医療情報科学研究所編、メディックメディア、pp78-80 (471) 3月
- 2) 宗景絵里、花崎和弘 (分担)
IV 肝・胆・膵疾患 C 膵 慢性膵炎 b. 外科的治療
消化器疾患最新の治療 2017-2018、小池和彦、山本博徳、瀬戸泰之編集、南江堂、pp438-440 (504) 2月
- 3) 北川博之、花崎和弘
実例に基づいた人工膵臓治療の解説
ベッドサイド型人工膵臓取り扱いマニュアル、中條大輔、山田和彦編集、診断と治療社、pp30-33 (131) 5月

- 4) 花崎和弘、宗景匡哉、北川博之、並川努
IV 肝臓の手術 肝前区域切除術
消化器外科 40 (5) 4月 :714-723
- 5) 花崎和弘
理想の男女共同参画を目指して 理想の男女共同参画を実現するための指導者の心構えとは？
日本外科学会雑誌 118 (2) 2月 :139-140
- 6) 藤澤和音、川西泰広、宗景匡哉、北川博之、並川努、花崎和弘
ステントグラフト内挿術により救命し得た食道癌による大動脈食道瘻の1例
手術 71 (10) :1463-1466
- 7) 花崎和弘、志賀舞、小河真帆、宗景絵里、藤澤和音、津田祥、藤枝悠希、北川博之、駄場中研
女性外科医に活躍の場を与えるための取り組み：地方大学指導者の立場から
日本外科学会雑誌 118 (1) 2017:117-119
- 8) 並川努、宗景匡哉、北川博之、上村直、岩部 純、宗景絵里、藤澤和音、花崎和弘
特集 最新の周術期の栄養管理
ICU と CCU Vol.41 (7) 2017:437-443
- 9) 花崎和弘
1. 肝胆膵のキホン①～⑤
どでかい図解でカンタンスイスイはわかり 肝胆膵の治療とケア :12-21
- 10) 花崎和弘
血糖管理と手術部位感染の予防
感染症 The Infection Vol.47 (5) 2017.9 通巻第 277 号 :18-22
- 11) 並川 努、福原秀雄、井上啓史、杉本健樹、花崎 和弘、山本正樹、栗山元根、穴山貴嗣、渡橋和政、石元達士、中島英貴、佐野英紀、川西裕、上羽哲也、佐藤隆幸、執印太郎
第1章 光を活用した新しい診断技術の現状と高感度化
第5節 消化器科領域における光を用いた診断と今後の早期、簡便、高感度化
株式会社技術情報協会 書籍 No.1912「疾患・病態検査・診断法の開発」2017.9:31-37
- 12) 福原秀雄、井上啓史、並川 努、杉本健樹、花崎和弘、山本正樹、栗山元根、穴山貴嗣、渡橋和政、石元達士、中島英貴、佐野英紀、川西裕、上羽哲也、佐藤隆幸、執印太郎
第1章 光を活用した新しい診断技術の現状と高感度化
第4節 泌尿器科領域における光を用いた診断と今後の早期、簡便、高度化
株式会社技術情報協会 書籍 No.1912「疾患・病態検査・診断法の開発」2017.9
- 13) 並川努、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
S-1+Oxaliplatin 療法が奏功し治癒切除可能となった肝転移を伴う進行胃癌の1例
癌と化学療法 Vol.44 (12) 2017.11:1446-1448
- 14) 花崎和弘、倉本秋
特別企画 (5)「今こそ地域医療を考えるー都市と地方の外科医療と外科教育の格差を解消するにはー」
3. 地方再生は教育から：地域外科医療の発展を目指した Academic Surgeon 育成への取り組み
日本外科学会雑誌 119 (1) :86-88.2018

業績：学会発表（2017.1～2017.12）

国際学会

- 1) Kobayashi M, Namikawa T, Maeda H, Okamoto K, Hanazaki K
Reduced port cholecystectomy for a 21 week pregnant patient with a history of laparoscopy-assisted distal gastrectomy
SAGES 2017, Houston, TX, USA, 2017.03
- 2) Obatake M, Hoshino E, Taura Y, Yamane Y, Yoshida T
Screening for biliary atresia and bile congestion liver disease with urinary sulfated bile acid
7th International Sendai Symposium Biliary Atresia (7th ISSBA), Symposium, Sendai, 2017.05
- 3) Obatake M, Hoshino E, Taura Y, Yamane Y, Yoshida T
THE CURRENT SITUATION AND ISSUES WITH A NEW NATIONWIDE STOOL COLOR CARD SCREENING AND A NEW STRATEGY FOR EARLY DIAGNOSIS OF BILIARY ATRESIA
ヨーロッパ小児外科学会、キプロス, 2017.05
- 4) Masayuki Obatake
Colon polyps and rectal carcinoma of a 19-year-old boy with the 5q- syndrome
50th Annual Meeting Pacific Association Pediatric Surgery (PAPS 2017), Seattle, USA, 2017.05
- 5) Hanazaki K
Center for photodynamic medicine in Kochi University.
2nd RCSI Bahrain/SBI Research Symposium, 2017.10
- 6) Namikawa T
Recent advances of light emitted fluorescence imaging in the gastrointestinal surgery.
2nd RCSI Bahrain/SBI Research Symposium, 2017.10

国内学会

- 1) 北川博之、杉本健樹、宗景絵里、花崎和弘
進行食道癌術後体重減少に関する因子の検討
第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会、岡山、2017.02
- 2) 杉本健樹、沖 豊和、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
当科で経験した遠隔転移を伴う甲状腺分化癌症例の検討－放射性ヨード内用療法の位置付けを考える－
第45回中国四国甲状腺外科研究会、岡山、2017.02
- 3) 沖 豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
良性甲状腺腫瘍の自然経過に関する検討－当院でフォローアップ中の症例から－
第45回中国四国甲状腺外科研究会、岡山、2017.02
- 4) 杉本健樹、沖豊和、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
当科で経験した遠隔転移を伴う甲状腺分化癌症例の検討－放射性ヨード内用療法の位置付けを考える－
第46回中国四国甲状腺外科研究会、岡山、2017.02
- 5) 沖 豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
良性甲状腺腫瘍の自然経過に関する検討－当院でフォローアップ中の症例から－
第47回中国四国甲状腺外科研究会、岡山、2017.02

- 6) 並川 努、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
上腸間膜動脈解離の2例
第53回日本腹部救急医学会学術集会、横浜、2017.03
- 7) 北川博之、並川 努、宗景匡哉、藤澤和音、川西泰広、宗景絵里、花崎和弘
非閉塞性腸間膜虚血症例における術前乳酸値と予後の検討
第53回日本腹部救急医学会学術集会、横浜、2017.03
- 8) 並川 努、小河真帆、沖豊和、宗景匡哉、前田広道、北川博之、杉本健樹、小林道也、花崎和弘
胃転移症例の臨床病理学的検討
第89回日本胃癌学会学術集会、広島、2017.03
- 9) 大島雅之、藤枝悠希、坂本浩一、花崎和弘
5q-症候群の経過中に発生した大腸癌の1例
第58回中国四国小児がん研究会、山口、2017.04
- 10) 並川努、川西泰広、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘
転移性胃腫瘍の臨床病理学的検討
第103回日本消化器病学会学術総会、東京、2017.04
- 11) 耕崎拓大、麻植啓輔、木岐 淳、小野正文、岩崎信二、西原利治、宗景匡哉、北川博之、花崎和弘、山上卓士
当院における神経内分泌腫瘍に対する somatostatin receptor scintigraphy の有用性の検討
第103回日本消化器病学会学術総会、東京、2017.04
- 12) 花崎和弘、倉本 秋
地方再生は教育から：地域外科医療の発展を目指した Academic Surgeon 育成への取り組み
第117回日本外科学会定期学術集会、特別企画、横浜、2017.04
- 13) 北川博之、並川努、宗景匡哉、藤澤和音、川西泰広、宗景絵里、小林道也、花崎和弘
食道癌手術における HyperEye Medical System (HEMS) を用いた ICG 蛍光法による再建臓器の血流評価と術後内視鏡評価
第117回日本外科学会定期学術集会、ワークショップ、横浜、2017.04
- 14) 杉本健樹、沖 豊和、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
HER2 陽性進行再発乳癌治療における新規抗 HER2 薬投与順位の予後に与える影響
第117回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04
- 15) 並川努、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、志賀 舞、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
胃癌化学療法における炎症反応と栄養状態が予後に及ぼす影響
第117回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04
- 16) 志賀舞、小河真帆、藤枝悠希、津田祥、津田晋、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、北川博之、花崎和弘
女性外科医も輝ける将来の外科医療を見据えて：卒後11年目の女性外科医からの提言
第117回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04
- 17) 宗景匡哉、北川博之、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、志賀 舞、前田広道、並川努、花崎和弘
肝切除術後アセトアミノフェン定時投与による疼痛管理の安全性
第117回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04

- 18) 川西泰広、宗景匡哉、北川博之、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、並川 努、花崎和弘
肝切除術後アセトアミノフェン定時投与による疼痛管理の有用性
第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04
- 19) 藤枝悠希、前田広道、岡本健、志賀舞、花崎和弘、小林道也
大腸癌術後のリンパ節検索に影響を及ぼす因子に関する検討
第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04
- 20) 石田信子、北川博之、宗景匡哉、藤澤和音、宗景絵里、川西泰広、花崎和弘
胸腔鏡下食道切除術を施行した右上葉気管支分枝異常を伴う食道癌の 1 例
第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04
- 21) 林泰寛、高村博之、牧野勇、大島慶直、中沼伸一、岡本浩一、酒井清祥、木下淳、中村慶史、尾山勝信、井口雅史、宮下知治、田島秀浩、二宮 致、伏田幸夫、宗景匡哉、北川博之、谷 卓、花崎和弘、太田哲生
当院における肝移植予後改善へ向けた取り組み -人工臓器導入から浮かび上がる術後の病態生理-
第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04
- 22) 沖豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
良性甲状腺腫瘍の自然経過に関する検討 -当院でフォローアップ中の症例から-
第 38 回高知県内分泌代謝研究会、2017.04
- 23) 杉本健樹、沖豊和、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
HER2 陽性進行再発乳癌治療における新規抗 HER2 薬投与順位の予後に与える影響
第 117 回日本外科学会定期学術集会、横浜、2017.04
- 24) 沖豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
良性甲状腺腫瘍の自然経過に関する検討 -当院でフォローアップ中の症例から-
第 29 回日本内分泌外科学会総会学術集会、神戸、2017.05
- 25) 坂本浩一、大島雅之、藤枝悠希、花崎和弘
オラネキシジングルコン酸塩による手術時皮膚消毒の小児外科手術への有効性に関する検討
第 54 回日本小児外科学会学術集会、仙台、2017.05
- 26) 並川努、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
胃神経鞘腫の 3 例
第 93 回日本消化器内視鏡学会学術総会、大阪、2017.05
- 27) 耕崎拓大、麻植啓輔、吉岡玲子、木岐淳、谷内恵介、小野正文、西原利治、宗景匡哉、北川博之、花崎和弘
超音波内視鏡下臍仮性嚢胞ドレナージの検討
第 93 回日本消化器内視鏡学会学術総会、大阪、2017.05
- 28) 沖豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
良性甲状腺腫瘍の自然経過に関する検討 -当院でフォローアップ中の症例から-
第 29 回日本内分泌外科学会総会、神戸、2017.05
- 29) 大島雅之
大腿部膿瘍にて発症した後腹膜膿瘍の 1 小児例
第 31 回日本小児救急医学会学術集会、東京、2017.06
- 30) 大島雅之
「小児の呼吸器内視鏡検査 -小児外科医の立場から-」
第 40 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会、長崎、2017.06

- 31) 並川 努、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
S-1/Oxaliplatin 療法が奏効し治癒切除可能となった肝転移を伴う進行胃癌の1例
第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017.06
- 32) 北川博之、並川 努、宗景匡哉、藤澤和音、川西泰広、小林道也、花崎和弘
胃管再建中の右胃大網静脈損傷に対して ICG 蛍光法を用いた静脈吻合が有用であった1例
第39回日本癌局所療法研究会、京都、2017.06
- 33) 杉本健樹、沖豊和、小河真帆、駄場中研、藤原キミ、小松明夫、下元憲明、花崎和弘
乳癌手術クリニカルパスから広がった院内パスの輪
第42回日本外科系連合学会学術集会、シンポジウム、徳島、2017.06
- 34) 並川努、川西泰広、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、佐藤隆幸、小林道也、花崎和弘
医工連携による産学共同研究を経て開発し臨床応用に至った新規医療機器の現状
第42回日本外科系連合学会学術集会、ワークショップ、徳島、2017.06
- 35) 北川博之、並川努、宗景匡哉、藤澤和音、川西泰広、小林道也、花崎和弘
食道癌手術胃管再建における ICG 蛍光法血流評価を用いた吻合方法の選択
第42回日本外科系連合学会学術集会、徳島、2017.06
- 36) 並川努、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
胃壁内転移をきたした食道胃接合部扁平上皮癌の1例
第71回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017.06
- 37) 北川博之、並川努、宗景匡哉、藤澤和音、川西泰広、小林道也、花崎和弘
腹部食道癌手術症例の臨床病理学的検討
第71回日本食道学会学術集会、軽井沢、2017.06
- 38) 耕崎拓大、木岐淳、高田昌史、吉岡玲子、谷内恵介、小野正文、西原利治、宗景匡哉、北川博之、花崎和弘、山上卓士、弘井 誠
胆膵癌に対する軟性生検鉗子の有用性の検討
第107回日本消化器病学会四国支部例会、合同シンポジウム、高知、2017.06
- 39) 前原遼、前田広道、辻井茂宏、金川俊哉、岡本健、田村 智、花崎和弘、小林道也
腺腫内癌を伴う虫垂絨毛腺腫の1例
第107回日本消化器病学会四国支部例会、高知、2017.06
- 40) 市川麻由、久家直子、津田尚子、山本朋佳、小笠原光成、越智経浩、宗景玄祐、廣瀬 享、野崎靖子、小野正文、岩崎信二、前田広道、小林道也、西原利治
直腸癌切除後の化学療法中に、急速に門脈圧亢進症が進行した非アルコール性脂肪肝炎の1例
第107回日本消化器病学会四国支部例会、高知、2017.06
- 41) 松本和花、北川達也、小笠原光成、野崎靖子、廣瀬 享、岩崎信二、西原利治、宗景匡哉、花崎和弘、弘井 誠
正常肝に発生した混合型肝癌の1例
第107回日本消化器病学会四国支部例会、高知、2017.06
- 42) 田村恵理、富田秀春、市川博源、岡田光生、榮枝弘司、上村直、辻井茂宏、八木健、円山英昭
化学療法が著効し切除し得た大腸神経内分泌細胞癌の1例
第107回日本消化器病学会四国支部例会、高知、2017.06

- 43) 田代真理、永井立平、松下憲司、泉谷知明、池上信夫、前田正長、杉本健樹
高知県における出生前診断の現状と課題 – NIPT を中心に –
第 41 回日本遺伝カウンセリング学会総会、2017.06
- 44) 杉本健樹、沖豊和、小河真帆、駄場中研、藤原キミ、小松明夫、下元憲明、花崎和弘
乳癌手術クリニカルパスから広がった院内パスの輪
第 42 回日本外科系連合学会学術集会、2017.06
- 45) 沖 豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
当科での HER2 陰性転移再発乳癌に対する TS-1 療法についての検討
第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017.07
- 46) 小河真帆、沖豊和、駄場中研、杉本健樹
Eribulin を投与した進行再発乳癌症例の検討 – 当科での 46 例の経験 –
第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017.07
- 47) 田代真理、小河真帆、沖 豊和、駄場中研、藤原キミ、杉本健樹
乳癌診療における遺伝性乳がん卵巣がん以外の遺伝性腫瘍診療の重要性
第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017.07
- 48) 藤原キミ、沖豊和、小河真帆、杉本健樹
当院における転移性乳がん患者に対する介護サービス導入の現状と課題
第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017.07
- 49) 上村直、辻井茂宏、津田昇一、坪井香保里、八木 健、北村龍彦、円山英昭、花崎和弘
主膵管内を充塞する形で増殖し閉塞性膵炎と巨大仮性嚢胞を伴った退形成性膵癌の 1 例
第 48 回日本膵臓学会大会、京都、2017.07
- 50) 耕崎拓大、吉岡玲子、木岐淳、麻植啓輔、谷内恵介、西原利治、宗景匡哉、北川博之、花崎和弘
化学療法の奏効により胆管・十二指腸ステントの脱落を認めた膵癌の 2 例
第 48 回日本膵臓学会大会、京都、2017.07
- 51) 藤枝悠希、三浦紀子、浦木 諒、松下憲司、大島雅之
出生後の呼吸困難で診断された左全欠損型横隔膜ヘルニアの 1 例
第 53 回日本周産期・新生児医学会学術集会、横浜、2017.07
- 52) 花崎和弘、宗景匡哉、藤澤和音、北川博之、並川努
Closed-loop 式人工膵臓を用いた外科周術期血糖管理の新展開：日本から世界へ発信するエビデンス
第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会、ワークショップ、金沢、2017.07
- 53) 花崎和弘
血糖管理は今、ネクストステージへ！ – 人工膵臓を用いた周術期血糖管理 –
第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会、ランチョンセミナー、金沢、2017.07
- 54) 北川博之、並川 努、宗景匡哉、川西泰広、藤澤和音、小林道也、花崎和弘
Hyper Eye Medical System を用いた ICG 蛍光法による胃管再建
第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会、金沢、2017.07
- 55) 宗景匡哉、北川博之、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、志賀 舞、並川努、花崎和弘
肝切除周術期における大建中湯の有用性
第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会、金沢、2017.07
- 56) 藤澤和音、並川努、川西泰広、藤枝悠希、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、小林道也、
花崎和弘
外科的切除を施行した十二指腸病変の臨床病理学的検討
第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会、金沢、2017.07

- 57) 高橋剛、藤谷和正、大森健、西川和宏、林太郎、並川努、大辻英吾、村山康利、瀧口修司、土岐祐一郎
5-ALA を用いた審査腹腔鏡検査時の光線力学診断の安全性及び有効性を検討する多施設前向き医師主導治験
第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会、ワークショップ、金沢、2017.07
- 58) 蒲田完介、高村博之、林泰寛、大島慶直、牧野 勇、中沼伸一、田島秀浩、伏田幸夫、花崎和弘、太田哲生
肝移植周術期管理への人工臓器の導入 – より良い周術期血糖管理の第一歩として –
第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会、金沢、2017.07
- 59) 中田浩二、池田 正、高橋正純、吉田昌、木南伸一、上之園芳一、藤田淳也、並川 努、寺島雅典、小寺泰弘
幽門側胃切除 B-I 再建と幽門保存胃切除の術後 QOL における施設間差の検討
第 72 回日本消化器外科学会定期学術総会、金沢、2017.07
- 60) 沖 豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
当科での HER2 陰性転移再発乳癌に対する TS-1 療法についての検討
第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017.07
- 61) 藤原キミ、沖豊和、小河真帆、杉本健樹
当院における転移性乳がん患者に対する介護サービス導入の現状と課題
第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017.07
- 62) 小河真帆、沖豊和、駄場中研、杉本健樹
Eribulin を投与した進行再発乳癌症例の検討 – 当科での 46 例の経験 –
第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017.07
- 63) 田代真理、小河真帆、沖豊和、駄場中研、藤原キミ、杉本健樹
乳癌診療における遺伝性乳がん卵巣がん以外の遺伝性腫瘍診療の重要性
第 25 回日本乳癌学会学術総会、福岡、2017.07
- 64) 杉本健樹、田代真理、小河真帆、沖 豊和、泉谷智明、池上信夫、山崎一郎、松下憲司、久保 享、執印太郎
遺伝性乳がん卵巣がん (HBOC) 家系員に対する情報提供の現状と課題
第 23 回日本家族性腫瘍学会学術集会、札幌、2017.08
- 65) 小河真帆、田代真理、沖豊和、駄場中研、杉本健樹
温存乳房照射野内に発生した異時性多発 HER-2 陽性局所進行乳癌で TP53 陰性を確認して強度変調放射線領域リンパ節照射を施行した若年発症乳癌の 1 例
第 23 回日本家族性腫瘍学会学術集会、札幌、2017.08
- 66) 田代真理、前田広道、小河真帆、沖豊和、牛若昂志、池上信夫、泉谷智明、山崎一郎、執印太郎、杉本健樹
当院における遺伝性腫瘍診療の現状
第 23 回日本家族性腫瘍学会学術集会、札幌、2017.08
- 67) 花崎和弘
ERAS を目指した肝胆膵外科周術期管理の工夫
第 54 回肝胆膵治療研究会、特別講演、名古屋、2017.08
- 68) 並川努、宇都宮正人、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、岩部 純、上村 直、金川俊哉、辻井茂宏、北川博之、花崎和弘、前田広道、小林道也、岡本 健
胃癌に対する 5-アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の有用性
第 70 回高知県医師会医学会、高知、2017.08

- 69) 杉本健樹、田代真理、小河真帆、沖豊和、泉谷智明、池上信夫、山崎一郎、松下憲司、久保亨、執印太郎
遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）家系員に対する情報提供の現状と課題
第23回日本家族性腫瘍学会学術集会、札幌、2017.08
- 70) 小河真帆、田代真理、沖 豊和、駄場中研、杉本健樹
温存乳房照射野内に発生した異時性多発 HER-2 陽性局所進行乳癌で TP53 陰性を確認して強度変調放射線で領域リンパ節照射を施行した若年発症乳癌の1例
第23回日本家族性腫瘍学会学術集会、札幌、2017.08
- 71) 田代真理、前田広道、小河真帆、沖豊和、牛若昂志、池上信夫、泉谷知明、山崎一郎、執印太郎、杉本健樹
当院における遺伝性腫瘍診療の現状
第23回日本家族性腫瘍学会学術集会、札幌、2017.08
- 72) 並川 努、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、岩部純、上村直、前田広道、矢田部智明、北川博之、浅野拓司、木下良彦、花崎和弘
産学共同研究により開発し臨床応用されている人工膵臓を用いた周術期血糖管理
第55回日本人工臓器学会大会、シンポジウム、東京、2017.09
- 73) 宗景匡哉、北川博之、藤澤和音、宗景絵里、山本奈緒、井本琢大、村上武、壬生希代、浅野卓司、木下良彦、矢田部智昭、並川努、花崎和弘
人工膵臓療法の普及のための最適なチーム医療を目指したシステム作り
第55回日本人工臓器学会大会、シンポジウム、東京、2017.09
- 74) 林泰寛、高村博之、牧野勇、大島慶直、中沼伸一、岡崎充善、山口貴久、寺井志郎、岡本浩一、酒井清祥、木下淳、中村慶史、尾山勝信、井口雅史、宮下知治、田島秀浩、二宮致、伏田幸夫、花崎和弘、太田哲生
人工膵臓適用拡大へ向けての課題ー当科での使用経験を踏まえてー
第55回日本人工臓器学会大会、シンポジウム、東京、2017.09
- 75) 並川努、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、岩部純、上村直、前田広道、矢田部智明、北川博之、浅野拓司、木下良彦、花崎和弘
新型人工膵臓を用いた周術期血糖管理
第55回日本人工臓器学会大会、シンポジウム、東京、2017.09
- 76) 藤澤和音、並川努、宇都宮正人、津田祥、岩部純、上村直、辻井茂宏、北川博之、花崎和弘
術後人工膵臓を使用し良好な経過を辿ったコントロール不良糖尿病合併急性胆嚢炎の1例
第55回日本人工臓器学会大会、シンポジウム、東京、2017.09
- 77) 北川博之、矢田部智明、並川努、花崎和弘
食道癌周術期管理における人工膵臓を用いた血糖管理
第55回日本人工臓器学会大会、シンポジウム、東京、2017.09
- 78) 山本奈緒、安藝和寛、長野文明、村上武、北川博之、花崎和弘
人工膵臓の他職種運用における現状と課題
第55回日本人工臓器学会大会、シンポジウム、東京、2017.09
- 79) 前田広道、岡本 健、並川 努、花崎和弘、小林道也
当科における胃・大腸癌に対するロボット支援手術の現状と今後の展望
第22回中国四国内視鏡外科学研究会、スポンサードシンポジウム、高知、2017.09
- 80) 宇都宮正人、岡本 健、金川俊哉、辻井茂宏、前田広道、花崎和弘、小林道也
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術後に腹腔鏡補助下切除を行ったS状結腸癌の1例
第92回中国四国外科学会総会・第22回中国四国内視鏡外科学研究会、高知、2017.09

- 81) 岡本 健、前田広道、並川 努、駄場中研、北川博之、小林道也
重さ 15kgの腹腔内を占拠する巨大脂肪肉腫の 1 例
第 49 回日本臨床分子形態学会学術集会、岐阜、2017.09
- 82) 北川博之
食道癌手術症例における術前患者関連予後因子の検討
第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会、札幌、2017.09
- 83) 藤原キミ、沖 豊和、小河真帆、杉本健樹
乳がん患者サロン「こはすりボン」の現状報告
第 14 回日本乳癌学会中国四国地方会、岡山、2017.09
- 84) 沖 豊和、杉本健樹、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
ホルモン感受性進行・再発乳癌に対する Everolimus 投与症例の検討
第 14 回日本乳癌学会中国四国地方会、岡山、2017.09
- 85) 田代真理、藤原キミ、沖 豊和、小河真帆、駄場中研、杉本健樹
HBOC 診療の多彩さと困難さを実感した BRCA2 家系の症例
第 14 回日本乳癌学会中国四国地方会、岡山、2017.09
- 86) 大島雅之
(12) 心に遺る 1 例
第 56 回日本小児外科学会中国四国地方会、岡山、2017.10
- 87) 並川努、宗景匡哉、花崎和弘
ベッドサイド型人工膵臓を用いた周術期血糖管理の意義
JDDW 2017 FUKUOKA 第 59 回日本消化器病学会大会、福岡、2017.10
- 88) 耕崎拓大、木岐淳、高田昌史、吉岡玲子、谷内恵介、小野正文、西原利治、宗景匡哉、北川博之、花崎和弘、山上卓士、弘井誠
当科における胆膵癌に対する軟性生検鉗子の使用経験
JDDW 2017 FUKUOKA 第 59 回日本消化器病学会大会、福岡、2017.10
- 89) 前田広道、岡本健、志賀舞、藤枝悠希、川西康広、並川努、花崎和弘、小林道也
脂肪溶解液を用いた大腸癌術後リンパ節検索の有用性に関する研究の中間報告
JDDW 2017 FUKUOKA 第 59 回日本消化器病学会大会、福岡、2017.10
- 90) 並川努、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
胃癌に対する 5- アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の有用性
第 35 回日本ヒト細胞学会学術集会、鹿児島、2017.10
- 91) 谷内恵介、長沼誠二、降幡睦夫、花崎和弘、西原利治、
膵癌細胞浸潤に関わる PODXL は膵癌術後予後予測因子として有用である
第 35 回日本ヒト細胞学会学術集会、鹿児島、2017.10
- 92) 小林 道也
内視鏡外科手術
第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017.10
- 93) 並川努、川西泰広、藤枝悠希、藤澤和音、宗景絵里、宗景匡哉、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
血清 carbohydrate antigen 125 は治癒切除不能進行胃癌の予後予測指標となる
第 55 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017.10

- 94) 並川努、北川博之、辻晃仁、大北仁裕、谷岡洋亮、犬飼道雄、高岡宗徳、林次郎、吉田和弘、浦上淳、羽井佐実、花崎和弘、瀧川奈義夫、榎本良夫
切除不能または再発胃癌患者に対する Short hydration 法を用いた S-1+CDDP の認容性試験
第 56 回日本癌治療学会学術集会、横浜、2017.10
- 95) 大島雅之、藤枝悠希、坂本浩一、花崎和弘
小児の術野消毒でのオラネキシジングルコン酸塩 1.5% 使用の検討
第 33 回日本小児外科学会、川崎、2017.10
- 96) 北川博之、並川努、岩部純、上村直、藤澤和音、津田祥、小林道也、花崎和弘
食道癌に対する食道切除胃管再建術後の体重変化に与える因子の検討
第 47 回胃外科・術後障害研究会、横浜、2017.11
- 97) 並川努、宇都宮正人、津田祥、藤澤和音、岩部純、宗景絵里、上村直、前田広道、北川博之、小林道也、花崎和弘
70 歳以上の高齢者胃癌患者に対する β -D-glucan を指標とした術後予防的抗真菌剤投与の検討
第 47 回胃外科・術後障害研究会、横浜、2017.11
- 98) 岩部純、並川努、津田祥、北川博之、小林道也、花崎和弘
ICG15 54%、PT52.1% の高度肝硬変合併胃癌に対する胃切除術の 1 例
第 47 回胃外科・術後障害研究会、横浜、2017.11
- 99) 北川博之、並川努、岩部純、上村直、藤澤和音、小林道也、花崎和弘
食道癌に対する縦隔鏡下左上縦隔郭清先行胸腔鏡下食道切除術
第 108 回日本消化器病学会四国支部例会、高松、2017.11
- 100) 耕崎拓大、高田昌史、吉岡玲子、木岐淳、坪井麻記子、谷内恵介、小野正文、西原利治、藤澤和音、上村直、北川博之、岡本健、並川努、花崎和弘
当院における超音波内視鏡下臍仮性嚢胞ドレナージの経験
第 108 回日本消化器病学会四国支部例会、高松、2017.11
- 101) 並川努、宇都宮正人、津田祥、藤澤和音、岩部純、上村直、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘
術後腸管への内視鏡的アプローチを考慮した胃癌再建術式
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 102) 津田祥、宇都宮正人、藤澤和音、岩部純、金川俊哉、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、岡本健、並川努、小林道也、花崎和弘
見逃された絞扼性腸閉塞 8 例の検討
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 103) 前田広道、岡本健、並川努、花崎和弘、小林道也
High risk stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法とリンパ節検索個数を増やすための工夫
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 104) 並川努、津田祥、藤澤和音、宗景絵里、岩部純、上村直、辻井茂宏、前田広道、北川博之、岡本健、公文龍也、小林道也、花崎和弘
Oxaliplatin と Capecitabine 併用療法による胃癌術後補助化学療法の検討
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 105) 谷岡信寿、志摩泰生、岡林雄大、大谷悠介、坂本真樹、高田鴨夫、山川純一、大石一行、須井健太、古北由仁、住吉辰朗、齋坂雄一、寺石文則、尾崎和秀、渋谷祐一
臍神経内分泌腫瘍の治療成績
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11

- 106) 北川博之、並川努、岩部純、藤澤和音、津田祥、上村直、宇都宮正人、小林道也、花崎和弘
胸腔鏡下食道癌切除術後 CRP 値と合併症の検討
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 107) 岩部純、北川博之、並川努、上村直、藤澤和音、津田祥、宇都宮正人、小林道也、花崎和弘
食道癌手術症例における重複癌の検討
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 108) 川西泰広、北川博之、藤澤和音、宗景匡哉、並川努、花崎和弘
化学療法奏功により十二指腸ステントが脱落し、小腸閉塞、穿通を起こした膵癌の 1 例
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 109) 宗景匡哉、塚田暁、津田晋、津田昇一、坪井香保里、北川博之、山本彰、田中洋輔、八木健、並川努、
北村龍彦、花崎和弘
当院における外傷性脾損傷の治療戦略
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 110) 杉本健樹、沖豊和、小河真帆、駄場中研、花崎和弘
乳癌 TC (Docetaxel+Cyclophosphamide) 療法の発熱性好中球減少症対策 –ペグフィフグラスモムの有用性–
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 111) 駄場中研、小河真帆、沖豊和、杉本健樹、花崎和弘
巨大甲状腺腫により呼吸障害を来し手術に至った Pendred 症候群の 1 例
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 112) 坂本浩一、大島雅之、辻井茂宏、藤枝悠希、花崎和弘
卵巣茎捻転を発症した卵巣滑脱ヘルニアの 1 例
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 113) 藤澤和音、上村直、並川努、北川博之、岩部純、津田祥、宇都宮正人、花崎和弘
術前胆嚢癌と鑑別が困難であった胆嚢繊維性ポリープの 1 例
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 114) 竹森大悟、上村直、並川努、駄場中研、北川博之、辻井茂宏、金川俊哉、藤澤和音、津田祥、宇都宮正人、
花崎和弘
胆管後区域枝が胆嚢頸部に合流する走行異常を伴っていた胆嚢摘出術の 1 例
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 115) 石田信子、藤澤和音、宇都宮正人、津田祥、金川俊哉、岩部純、上村直、辻井茂宏、北川博之、並川努、
花崎和弘
落下胃石により小腸穿孔をきたした一例
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 116) 前原遼、藤枝悠希、川西泰広、志賀舞、徳丸哲平、秋森豊一、上岡教人
黄連解毒湯の長期内服で腸間膜静脈硬化症を発症し外科的切除で治癒した 1 例
第 79 回日本臨床外科学会総、東京、2017.11
- 117) 並川努、宇都宮正人、津田祥、藤澤和音、岩部純、宗景絵里、上村直、前田広道、北川博之、岡本健、
小林道也、花崎和弘
高齢者胃癌患者における周術期の β -D-glucan を指標とした予防的抗真菌剤投与の探索的検討
第 30 回日本外科感染症学会総会、東京、2017.11
- 118) 北川博之、並川努、岩部純、花崎和弘
腹臥位胸腔鏡下食道切除術における術後肺炎要因の検討
第 30 回日本外科感染症学会総会、東京、2017.11

- 119) 杉本健樹、藤島正則、安藝史典、岡本裕美子、末廣史恵、沖豊和、小河真帆、山川 卓
乳癌検診
第 27 回日本乳癌検診学会学術総会、徳島、2017.11
- 120) 杉本健樹、岡本裕美子、入交玲奈、鶴岡美里、末廣史恵、中内優、中西啓文、元木徳治
マンモグラフィ・超音波併用乳癌検診の意義－併用検診受信者 13544 人の検討－
第 27 回日本乳癌検診学会学術総会、徳島、2017.11
- 121) 山川 卓、杉本健樹、藤島則明、安芸史典
高知県における対策型検診の現況と任意型、診療型検診を含めた 2015 年度の受診率
第 27 回日本乳癌検診学会学術総会、徳島、2017.11
- 122) 杉本健樹、田代真理、小河真帆、沖 豊和、駄場中研、花崎和弘
乳癌のための遺伝性腫瘍診療－乳腺診療と遺伝診療の連携－
第 27 回日本乳癌検診学会学術総会、ワークショップ、徳島、2017.11
- 123) 花崎和弘、上村直、藤澤和音、津田祥、宗景匡哉、北川博之、並川努
将来の地域医療を担うスターサージョン育成を目指した地方大学の取り組み
第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017.12
- 124) 並川努、津田祥、宗景絵里、岩部純、上村直、前田広道、北川博之、岡本健、小林道也、花崎和弘
内視鏡的粘膜下層剥離術後腹腔鏡下胃切除し孤立性脾転移をきたした早期胃癌の一例
第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017.12
- 125) 北川博之、並川努、小林道也、岩部純、上村直、藤澤和音、花崎和弘
腹臥位胸腔鏡下食道切除術における頸部先行と胸部先行アプローチの比較
第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017.12
- 126) 岡本健、前田広道、藤澤和音、岩部純、花崎和弘、小林道也
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術後に腹腔鏡補助下切除を行った S 状結腸癌の 1 例
第 30 回日本内視鏡外科学会総会、京都、2017.12
- 127) 杉本健樹、小河真帆、沖 豊和、駄場中研、中島典昭、下元憲明、小松明夫、藤原キミ、栗山元根、
花崎和弘
乳癌センチネルリンパ節生検－電子パスでも術式変更に対応できる－
第 18 回日本クリニカルパス学会学術集会、大阪、2017.12

業績：2017 年度

研究助成

【研究種目】 日本学術復興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)

【研究期間】 平成 29 ～ 31 年度

【研究課題名】 胃癌の内視鏡的粘膜切除における 5-ALA を用いた革新的光力学的診断の開発応用

【研究代表者】 並川 努

【研究種目】 臨床研究・治験推進研究事業

【研究期間】 平成 29.8.28 ～ 32 年度

【研究課題名】 治験の実施に関する研究【5ALA】

(進行胃癌患者を対象とした審査腹腔鏡検査時における SPP-005 を用いた光線力学診断の有用性及び安全性を検討する多施設共同試験 (検証試験))

研究代表者 並川 努

【研究種目】 臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業

【研究期間】 外科手術症例登録データならびに医療費データの連携に基づく地域医療体制の評価と改善に関する研究

【研究課題名】 平成 28.10.17 ～ 31 年度

【研究分担者】 花崎 和弘

【研究種目】 医療研究開発推進事業費補助金 (難治性疾患実用化研究事業)

【研究期間】 平成 29.4.27 ～ 32 年度

【研究課題名】 「胆道閉鎖症の早期診断に関する研究」における尿中硫酸抱合型胆汁酸に関する研究

【研究分担者】 大島 雅之

【研究種目】 共同研究 (日機装株式会社)

【研究期間】 平成 29.4.1 ～ 30 年度

【研究課題名】 正常ラット及び STZ ラットを用いた血糖変動モデルの作成

【研究代表者】 花崎 和弘

【研究種目】 共同研究 (株式会社ツムラ)

【研究期間】 平成 28 年～ 31 年度

【研究課題名】 薬物動態 -メタボローム統合解析による麻黄湯 (TJ-27) の有用性・安全性についての研究

【研究代表者】 花崎 和弘

その他助成金

[補助事業名] 一般社団法人 高知医療再生機構
平成 29 年度専門医養成支援事業

[研究期間] 平成 29 年度

[研究代表者] 花崎 和弘

[研究種目] 一般社団法人 高銀地域経済復興振興財団

[研究課題名] 光感受性物質前体 5-アミノレブリン酸による光力学診断を用いた消化器悪性腫瘍の
検出

[研究期間] 平成 26 年～

[研究代表者] 並川 努

[事業名] 平成 28 年度高知大学医学部附属病院研究者表彰

[受賞区分] 優秀研究者賞（原著論文部門）

[研究費授与] 平成 29 年 4 月

[対象者] 前田 広道

[事業名] 平成 28 年度高知大学医学部附属病院研究者表彰

[受賞区分] 優秀研究者賞（原著論文部門）

[研究費授与] 平成 29 年 4 月

[対象者] 北川 博之

会員名簿

[正会員]

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
秋森 豊一	〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芳奈 3-1 高知県立幡多けんみん病院 TEL: 0880-66-2222 FAX: 0880-66-2111	高知医科	昭和 63 年
荒木京二郎	〒781-4212 高知県香美市香北町美良布 1064-9 医療法人豊秋会 香北病院 TEL: 0887-59-2251 FAX: 0887-59-2928	三重県立	昭和 41 年
安藤 徹	〒780-8535 高知県高知市大膳町 37 社会医療法人仁生会 細木病院 緩和ケア科部長・外科 TEL: 088-822-7211 FAX: 088-825-0909	高知医科	平成 3 年
井関 恒	〒780-8040 高知県高知市神田 317-12 JCHO 高知西病院 外科 TEL: 088-843-1501 FAX: 088-840-1096	岩手医科	昭和 50 年
市川 賢吾	〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学大学院・腫瘍制御学講座・腫瘍外科学分野 TEL: 0585-21-1111 FAX: 0585-21-1112	高知医科	平成 15 年
伊与木増喜	〒781-1105 高知県土佐市蓮池 1227-5 医療法人いよき会 伊与木クリニック TEL: 088-828-5222 FAX: 088-828-5223	高知医科	昭和 60 年
岩部 純	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科 1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	高知	平成 19 年
上村 直	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科 1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	高知	平成 18 年
氏原 孝司	〒780-5103 高知市大津乙 719 医療法人厚愛会 高知城東病院	山口	昭和 63 年
白井 隆	〒781-6410 高知県安芸郡田野町 1414-1 医療法人白井会 田野病院 TEL: 0887-38-7111 FAX: 0887-38-5568	岡山	昭和 47 年
宇都宮正人	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科 1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	高知	平成 27 年
大木 章	〒780-0844 高知県高知市永国寺町 1-46 医療法人博信会 中ノ橋病院 外科 TEL: 088-872-4069 FAX: 088-872-4077	愛知医科	平成 8 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
大畠 雅之	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部附属病院外科 TEL：088-880-2370 FAX：088-880-2371	長崎	昭和61年
宗景 絵里	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL：088-880-2370 FAX：088-880-2371	神戸	平成21年
大海研二郎	〒780-0051 高知県高知市愛宕町1丁目4番13号 医療法人新松田会 愛宕病院 外科 TEL：088-823-3301 FAX：088-871-0531	高知医科	平成4年
尾形 雅彦	〒781-5103 高知県高知市大津乙719 医療法人厚愛会 高知城東病院 外科 TEL：088-866-2326 FAX：088-866-5365	高知医科	昭和61年
岡林 雄大	〒781-8555 高知県高知市池2125-1 高知医療センター 外科 TEL：088-837-3000 FAX：088-837-6766	香川医科	平成9年
岡本 健	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部医療学講座医療管理学分野 TEL：088-880-2760 FAX：088-880-2702	高知医科	平成4年
小河 真帆	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1（乳腺センター） TEL：088-880-2139 FAX：088-880-2140	高知	平成19年
沖 豊和	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1（乳腺センター） TEL：088-880-2139 FAX：088-880-2140	高知	平成19年
尾崎 信三	〒780-8535 高知県高知市大膳町37 社会医療法人仁生会 細木病院 外科 TEL：088-822-7211 FAX：088-825-0909	高知医科	平成7年
柏井 英助	〒781-1101 高知県土佐市高岡町甲2044 医療法人広正会 井上病院 TEL：088-852-2131 FAX：088-852-2133	佐賀医科	平成元年
金川 俊哉	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL：088-880-2139 FAX：088-880-2371	徳島	平成15年
金子 昭	〒780-0824 高知県高知市城見町4-13 医療法人高田会 高知記念病院 外科 TEL：088-883-4377 FAX：088-882-6261	山口	昭和56年
上岡 教人	〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芳奈3-1 高知県立幡多けんみん病院 TEL：0880-66-2222 FAX：0880-66-2111	信州	昭和58年
川西 泰広	〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芳奈3-1 高知県立幡多けんみん病院 外科 TEL：0880-66-2222 FAX：0880-66-2111	高知	平成26年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
川村 達夫	〒780-8050 高知県高知市鴨部 1085-1 医療法人成仁会 快聖クリニック TEL: 088-850-0038 FAX: 088-850-0120	日本	昭和46年
北川 尚史	〒780-0824 高知県高知市城見町 4-13 医療法人高田会 高知記念病院 外科 TEL: 088-883-4377 FAX: 088-882-6261	防衛医科	昭和55年
北川 博之	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	高知医科	平成15年
公文 正光	〒781-5213 高知県香南市野市町東野 555-18 医療法人公世会 野市中央病院 TEL: 0887-55-1101 FAX: 0887-55-0177	群馬	昭和50年
久禮三子雄	〒596-0004 大阪府岸和田市荒木町 1-8-8 医療法人くれクリニック TEL: 072-444-9014 FAX: 072-444-9082	高知医科	昭和59年
計田 一法	〒787-0331 高知県土佐清水市越前町 6-1 医療法人聖真会 渭南病院 外科 TEL: 0880-82-1151 FAX: 0880-82-0429	高知医科	昭和60年
小高 雅人	〒655-0031 兵庫県神戸市垂水区清水が丘 2丁目5番1号 医療法人薫風会 佐野病院 消化器がんセンター TEL: 078-785-1000	高知医科	平成9年
小林 昭広	〒270-2251 千葉県松戸市金ヶ作 107-1 社会医療法人木下会 千葉西総合病院 TEL: 047-384-8111 FAX: 047-384-9403	高知医科	平成5年
小林 道也	〒783-8505 高知大学医学部医療学講座医療管理学分野 高知県南国市岡豊町小蓮 TEL: 088-880-2202 FAX: 088-880-2702	高知医科	昭和59年
近藤 雄二	〒780-0833 医療法人生生会 下村病院 高知県高知市南はりまや町 1-7-15 TEL: 088-882-7161 FAX: 088-882-3634	高知医科	昭和60年
齋藤 卓	〒781-5213 医療法人公世会 野市中央病院 外科 高知県香南市野市町東野 555-18 TEL: 0887-55-1101 FAX: 0887-55-0177	高知医科	平成12年
坂本 浩一	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	鹿児島	平成8年
志賀 舞	〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芳奈 3-1 高知県立幡多けんみん病院 外科 TEL: 0880-66-2222 FAX: 0880-66-2111	高知	平成18年
西家佐吉子	〒780-0066 高知県高知市比島町 4丁目6番22号 医療法人仁栄会 島津病院 外科 TEL: 088-823-2285 FAX: 088-824-2363	川崎医科	平成14年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
白石 哲夫	〒781-6410 高知県安芸郡田野町1414-1 医療法人白井会 田野病院 外科 TEL: 0887-38-7111 FAX: 0887-38-5568	高知医科	昭和62年
杉藤 正典	〒277-0803 千葉県柏市小青田1丁目3番地2 医療法人社団葵会 千葉・柏たなか病院 消化器外科 TEL: 04-7131-4131 FAX: 04-7133-3154	高知医科	昭和60年
杉本 健樹	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1(乳腺センター) TEL: 088-880-2139 FAX: 088-880-2140	高知医科	昭和60年
高田 早苗	〒780-0824 高知県高知市城見町4-13 医療法人高田会 高知記念病院 外科 TEL: 088-883-4377 FAX: 088-882-6261	関西医科	昭和47年
高野 篤	〒780-0806 高知県高知市知寄町1丁目5-15 特定医療法人久会 函南病院 外科 TEL: 088-882-3126 FAX: 088-882-3128	高知医科	昭和62年
田島 幸一	〒781-8135 高知県高知市一宮南町1丁目10-15 医療法人社団晴緑会 高知総合リハビリテーション病院 TEL: 088-845-1641 FAX: 088-846-2811	徳島	昭和48年
谷岡 信寿	〒781-8555 高知県高知市池2125-1 高知医療センター 消化器外科・一般外科 TEL: 088-837-3000 FAX: 088-837-6766	高知	平成26年
谷口 寛	〒720-0802 広島県福山市松浜町1丁目13-38 医療法人社団健生会 いそだ病院 外科 TEL: 084-922-3346 FAX: 084-923-0531	高知医科	平成5年
駄場中 研	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	高知医科	平成5年
田村 耕平	〒785-0036 高知県須崎市緑町4番30号 医療法人五月会 須崎くろしお病院 外科 TEL: 0889-43-2121 FAX: 0889-42-1582	島根医科	平成12年
田村 精平	〒785-0036 高知県須崎市緑町4番30号 医療法人五月会 須崎くろしお病院 TEL: 0889-43-2121 FAX: 0889-42-1582	岡山	昭和47年
辻 豪	〒789-1301 高知県高岡郡中土佐町久礼6614 医療法人健美会 なかとき病院 TEL: 0889-52-2040 FAX: 0889-52-3680	川崎医科	昭和55年
辻井 茂宏	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	徳島	平成16年
津田 祥	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	高知	平成26年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
津田 晋	〒780-8522 高知県高知市大川筋1丁目1-16 社会医療法人近森会 近森病院 外科 TEL: 088-822-5231 FAX: 088-871-7429	高知	平成26年
都築 英雄	〒783-8509 高知県南国市明見字中野526-1 JA高知病院 外科 TEL: 088-863-2181 FAX: 088-863-2186	徳島	昭和62年
直木 一朗	〒784-0027 高知県安芸市宝永町1-32 高知県立あき総合病院 外科 TEL: 0887-34-3111 FAX: 0887-34-2687	高知医科	平成3年
中谷 肇	〒786-0002 高知県高岡郡四万十町見付902-1 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 TEL: 0880-22-1111 FAX: 0880-22-1166	高知医科	平成10年
中野 琢巳	〒362-0001 埼玉県上尾市上144番地2 北上尾クリニック TEL: 048-779-2111	高知医科	昭和62年
永野 克二	〒880-0853 宮崎県宮崎市中西町160番地慈英病院	高知医科	平成8年
中村 生也	〒787-0010 高知県四万十市古津賀1463 さくらクリニック TEL: 0880-35-2555 FAX: 0880-35-2572	高知医科	昭和63年
並川 努	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	高知医科	平成3年
橋詰 直樹	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67 久留米大学医学部外科学講座 小児外科部門 TEL: 0942-31-7631 FAX: 0942-31-7705	高知	平成19年
橋本 祥格	〒781-1101 高知県土佐市高岡町甲750-1 医療法人桔梗ヶ丘会 橋本外科胃腸科内科 TEL: 088-852-5522 FAX: 088-852-5305	日本	昭和59年
花崎 和弘	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	新潟	昭和59年
濱里 真二	〒781-4212 高知県香美市香北町美良布1064-9 医療法人豊秋会 香北病院 TEL: 0887-59-2251 FAX: 0887-59-2928	長崎	昭和57年
浜田 伸一	〒786-0002 高知県高岡郡四万十町見付902-1 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 TEL: 0880-22-1111 FAX: 0880-22-1166	高知医科	昭和61年
曳田 知紀		宮崎医科	昭和55年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
福留 惟行	〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31(臨海副都心) 公益財団法人 がん研究会 有明病院 消化器センター 外科 TEL: 03-3520-0111 FAX: 03-3520-0141	高知	平成20年
藤枝 悠希	〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芳奈3-1 高知県立幡多けんみん病院 外科 TEL: 0880-66-2222 FAX: 0880-66-2111	高知	平成26年
藤澤 和音	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科1 TEL: 088-880-2370 FAX: 088-880-2371	高知	平成25年
飯田 千子	〒783-0005 高知県南国市大埴乙995 医療法人藤原会 藤原病院 TEL: 088-863-1212 FAX: 088-863-5585	愛知医科	平成13年
船越 拓	〒781-0011 高知県高知市薊野北町2丁目10番53号 医療法人防治会 いずみの病院 外科 TEL: 088-826-5511 FAX: 088-826-5510	高知	平成18年
古屋 泰雄	〒711-0906 岡山県倉敷市児島下の町9-11-30 松田外科胃腸科医院 TEL: 086-472-7383	高知医科	昭和62年
別府 敬		高知医科	昭和63年
甫喜本憲弘	〒780-8562 高知県高知市新本町2-13-51 高知赤十字病院 第二外科 TEL: 088-822-1201 FAX: 088-822-1056	高知医科	平成11年
前田 広道	〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部附属病院がん治療センター TEL: 088-880-2760 FAX: 088-880-2702	高知医科	平成16年
松浦喜美夫	〒781-2193 高知県吾川郡いの町1369 いの町立国民健康保険仁淀病院 TEL: 088-893-1551 FAX: 088-893-4892	弘前	昭和49年
松森 保道	〒781-1101 高知県土佐市高岡町甲1867 土佐市立土佐市民病院 TEL: 088-852-2151 FAX: 088-852-3549	徳島	平成2年
水嶋 秀	〒603-8002 京都府京都市北区上賀茂神山6 医療法人浜田会 洛北病院 内科	高知医科	平成5年
溝淵 敏水	〒787-0331 高知県土佐清水市越前町6-1 医療法人聖真会 渭南病院 TEL: 0880-82-1151 FAX: 0880-82-0429	東京慈恵医科	平成6年
宗景 匡哉	〒780-8522 高知県高知市大川筋1丁目1-16 社会医療法人近森会 近森病院 外科 TEL: 088-822-5231 FAX: 088-871-7429	高知	平成19年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
森 一水	〒781-1101 高知県土佐市高岡町甲 1867 土佐市立土佐市民病院 TEL: 088-852-2151 FAX: 088-852-3549	徳島	昭和48年
森田 雅夫	〒785-8501 高知県須崎市緑町4番30号 医療法人五月会 須崎くろしお病院 外科 TEL: 0889-43-2121 FAX: 0889-42-1582	高知医科	昭和62年
安原 清司	〒780-0901 高知県高知市上町1-3-4 医療法人三和会 国吉病院 消化器外科 TEL: 088-875-0231	山口	平成2年
山崎 奨	〒781-1301 高知県高岡郡越知町越知甲 2107-1 医療法人 山秀会 山崎外科整形外科病院 TEL: 0889-26-1136 FAX: 0889-26-1799	杏林	昭和54年
山中 康明	〒781-5213 高知県香南市野市町東野 555-18 医療法人公世会 野市中央病院 リハビリテーション科 TEL: 0887-55-1101 FAX: 0887-55-0177	金沢医科	昭和55年
山本 真也	〒783-0022 高知県南国市小籠 107 社会福祉法人土佐希望の家 土佐希望の家 TEL: 088-863-2131 FAX: 088-863-2133	高知医科	平成元年
山本 恒義		弘前	昭和50年
山本 拓	〒781-1103 高知県土佐市高岡町丙 64-1 医療法人 杏クリニック TEL: 088-856-6300 FAX: 088-856-6301	杏林	昭和62年
吉本 忠	〒780-8121 高知県高知市葛島1丁目9-50 医療法人山口会 高知厚生病院 消化器外科 TEL: 088-882-6205 FAX: 088-883-1655	高知医科	平成3年
横田啓一郎	〒780-8562 高知県高知市新本町2-13-51 高知赤十字病院 外科 TEL: 088-822-1201 FAX: 088-822-1056	高知	平成26年

[特別会員]

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
安藝 史典	〒780-0085 高知県高知市札場 12-10 伊藤外科乳腺クリニック TEL: 088-883-6868 FAX: 088-883-6879	広島	平成6年
内海 善夫	〒780-0051 高知県高知市愛宕町1丁目4番13号 医療法人新松田会 愛宕病院 TEL: 088-823-3301 FAX: 088-871-0531	鳥取	昭和57年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
宇都宮博史	〒780-0844 高知県高知市永国寺町 1-46 医療法人博信会 中ノ橋病院 TEL: 088-872-4069 FAX: 088-872-4077	日本	昭和 53 年
岡 瑛世	〒783-0005 高知県南国市大樋乙 995 医療法人藤原会 藤原病院 TEL: 088-864-1092 FAX: 088-863-7173		
岡添 友洋	〒780-0963 高知県高知市口細山 206-9 高知医療生活協同組合 高知生協病院 外科 TEL: 088-840-0123 FAX: 088-820-0409	藤田保健衛生	平成 19 年
岡林 敏彦	〒780-8040 高知県高知市神田 598-1 医療法人弘仁会 岡林病院 TEL: 088-832-8821 FAX: 088-832-8878		
岡林 弘毅	〒780-0861 高知県高知市升形 4-3 県庁前クリニック TEL: 088-823-6651 FAX: 088-823-6743	群馬	昭和 44 年
小野二三雄	〒781-5102 高知県高知市大津甲 560-2 医療法人小野会 おの肛門科胃腸科外科 TEL: 088-866-5500 FAX: 088-866-2777		
上地 一平	〒780-8535 高知県高知市大膳町 37 社会医療法人仁生会 細木病院 外科 088-822-7211 FAX: 088-825-0909	昭和	昭和 61 年
川村 貴範	〒780-0963 高知県高知市口細山 206-9 高知医療生活協同組合 高知生協病院 TEL: 088-840-0123 FAX: 088-820-0409	高知医科	平成 2 年
北村 嘉男	〒781-2110 高知県吾川郡いの町 3864 番地 1 医療法人光陽会 いの病院 TEL: 088-893-0047 FAX: 088-893-1250	徳島	昭和 43 年
公文 龍也	〒781-5213 高知県香南市野市町東野 555-18 医療法人公世会 野市中央病院 TEL: 0887-55-1101 FAX: 0887-55-0177	岡山	平成 17 年
桑原 和則	〒780-8040 高知県高知市神田 317-12 JCHO 高知西病院 TEL: 088-843-1501 FAX: 088-840-1096		
古賀真紀子	〒781-3521 高知県土佐郡土佐町田井 1372 医療法人十全会 早明浦病院 TEL: 0887-82-0456 FAX: 0887-82-2902		
島津 栄一	〒780-0066 高知県高知市比島町 4 丁目 6 番 22 号 医療法人仁栄会 島津病院 TEL: 088-823-2285 FAX: 088-824-2363	岐阜	昭和 44 年
島村 善行	〒270-2241 千葉県松戸市松戸新田 21-2 島村トータル・ケア・クリニック TEL: 047-308-5546 FAX: 047-308-5547	京都府立医科	昭和 47 年

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
島本 政明	〒780-0841 高知県高知市帯屋町 2-6-3 医療法人島本慈愛会 島本病院 TEL : 088-873-6131 FAX : 088-873-6131	日本医科	昭和 44 年
高橋 淳二	〒780-0051 高知県高知市愛宕町 3 丁目 9-20 医療法人悠仁会 高橋病院 TEL : 088-822-1616 FAX : 088-822-3530	徳島	昭和 29 年
竹下 篤範	〒780-0863 高知県高知市与力町 2 丁目 3 番 8 号 医療法人竹下会 竹下病院 TEL : 088-822-2371 FAX : 088-822-2375	日本医科	昭和 40 年
竹増 公明	〒799-3202	愛媛	昭和 62 年
田中 誠	〒780-0901 高知県高知市上町 1 丁目 7 番 34 号 医療法人産研会 上町病院 TEL : 088-823-3271 FAX : 088-823-3275	三重県立	昭和 46 年
近森 正幸	〒780-0052 高知県高知市大川筋 1 丁目 1-16 社会医療法人近森会 TEL : 088-822-5231 FAX : 088-872-3059	大阪医科	昭和 47 年
長田 裕典	〒781-0011 高知県高知市薊野北町 2 丁目 10 番 53 号 医療法人防治会 いずみの病院 外科 TEL : 088-826-5511 FAX : 088-826-5510	岡山	昭和 57 年
西山 瑩	〒780-8040 高知県高知市神田 317-12 JCHO 高知西病院 外科 TEL : 088-843-1501 FAX : 088-840-1096	岡山	昭和 34 年
久 直史	〒780-0806 高知県高知市知寄町 1 丁目 5-15 特定医療法人 久会 函南病院 TEL : 088-882-3126 FAX : 088-882-3128	慶應義塾	昭和 50 年
福本 和生	〒787-0013 愛媛県松山市河野中須賀 288-5 医療法人社団樹人会 北条病院 TEL : 089-993-1200 FAX : 089-993-1700	岡山	昭和 58 年
細木 秀美	〒780-8535 高知県高知市大膳町 37 社会医療法人仁生会 TEL : 088-820-4100	東京医科	昭和 42 年
堀見 忠司	〒780-8535 高知県高知市大膳町 37 社会医療法人仁生会 細木病院 TEL : 088-820-4100	京都府立医科	昭和 45 年

[名誉会員]

氏名	勤務先	出身大学	卒業年
溝渕 玲子	〒787-0331 高知県土佐清水市越前町 6-1 医療法人 聖真会 渭南病院 TEL: 0880-82-1151 FAX: 0880-82-0429	東京慈恵医科	昭和 40 年
味村 俊樹	〒331-0074 埼玉県さいたま市西区宝来 1295-1 医療法人三慶会 指扇病院 排便機能センター TEL: 048-623-1102	東京	昭和 63 年
村山 正毅	〒740-0034 山口県岩国市南岩国町 2 丁目 77 番 23 号 医療法人岩国みなみ病院 外科 TEL: 0827-32-4100 FAX: 0827-32-4105	岡山	昭和 42 年
山本 浩志	〒783-0011 高知県南国市後免町 3 丁目 1-27 医療法人地塩会 南国中央病院 TEL: 088-864-0001 FAX: 088-864-0332	東京医科	昭和 47 年
夕部 富三	〒781-0011 高知県高知市薊野北町 2 丁目 10 番 53 号 医療法人防治会 いずみの病院 TEL: 088-826-5511 FAX: 088-826-5510	自治医科	昭和 53 年
石黒 晴久	〒781-1101 高知県土佐市高岡町甲 2044 医療法人広正会 井上病院 TEL:088-852-2131 FAX:088-852-2133		
大西 三朗	〒786-0002 高知県高岡郡四万十町見付 902-1 医療法人川村会 くぼかわ病院 外科 TEL:0880-22-1111 FAX:0880-22-1166		

[物故会員]

氏名	出身大学	卒業年	逝去年月日
緒方 卓郎	岡山大学	昭和 29 年	平成 20 年 1 月 30 日
吉川 健	独協医科大学	昭和 61 年	平成 20 年 3 月 10 日
清藤 敬	岡山大学	昭和 36 年	平成 20 年 5 月 1 日
寺田 紘一	鳥取大学	昭和 41 年	平成 20 年 6 月 29 日
泉山 史貴	杏林大学	平成 3 年	平成 21 年 1 月 12 日
阿部 哲朗	高知医科大学	昭和 59 年	平成 22 年 6 月 2 日
井上 廣	長崎医科大学	昭和 19 年	平成 23 年 6 月 23 日
半田 祐彦			平成 24 年 5 月 9 日
溝渕南海郎			平成 26 年 8 月 18 日
川村 明廣	大阪医科	昭和 53 年	平成 28 年 12 月 21 日

高知大学医学部外科学講座外科一教室同門会会則（案）

昨年の楷風会総会の審議事項といたしました会則および役員選出の最終案ができました。

今年度開催の楷風会総会の審議の前に、会員の皆様にあらかじめご一読いただけると幸いに存じます。

第1条（名称）

第1項 本会は、高知大学医学部外科学講座外科一楷風会（以下「本会」）と称する。

第2条（目的）

第1項 本会は会員相互の親睦を図り、かつ知見の増進に努めることを目的とする。

第3条（会員）

第1項 会員は以下の者をもって構成される。

1. 高知医科大学第一外科教室および高知大学医学部外科学講座外科一教室の出身者ならびに現教室員とする。

第2項 特別会員は、正会員以外で本会の主旨に賛同し、所定の会費を納入する者。

第3項 会員は、本会の目的に賛同し、総会で承認された者とする。

第4条（組織）

第1項 本会は次の役員を置き、本会の運営にあたる。

1. 会長1名、理事3名、幹事3名、会計監事2名

第5条（役員）

第1項 名誉会長は前会長とする。

第2項 会長は高知大学医学部外科学講座外科一教室の教授とする。

第3項 理事は会長が推薦し、総会によって承認する。

第4項 幹事は会長が推薦し、一般会務の処理を行う。

第5項 会計監事は会長が推薦し、一般会計の監査を行う。

第6項 役員は任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

第6条（役員会）

第1項 役員会は、本会の運営に関する事項について協議決定する。

第2項 役員会は、会長が必要と定めた時、または役員より要請があった時に召集する。

第7条（総会）

第1項 本会は、年1回定例総会を開催する。

第8条（会計）

第1項 本会の会計は年会費および寄附金等により運営する。

第2項 年会費は細則で定める。

第3項 会計年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

第9条（退会）

第1項 会員が死亡したとき。

第2項 会員が退会を希望し、総会で承認されたとき。

第10条（除名）

第1項 会員が以下に該当するときは、総会の議決を経て会長が除名することができる。

1. 会員としての義務を怠ったとき。
2. 本会の名誉を著しく傷つけたとき。
3. その他、上記以外に除名に該当する言動があったとき。

第11条（事業）

第1項 本会は以下の事業を行う。

1. 会報の刊行。
2. 高知大学医学部外科学講座外科一教室の活動の援助。
3. その他、第2条の目的を達成するために必要な事業。

第12条（会則の変更）

第1項 本会則は、総会における過半数の賛成により変更することができる。

第13条（事務局）

第1項 本会の事務局は、高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部外科学講座外科一教室内に置く。

第2項 事務局は本会の庶務一般、会費の徴収、会計事務等を行う。

附則

1. 役員は本会の円滑な運営を計るため、必要に応じて細則を定めることができる。

細則

1. 年会費は以下の通りとする。
 - 1) 正会員は年8,000円。
 - 2) 特別会員は年5,000円。

この会則の改定は、平成30年5月12日より施行する。

高知大学医学部外科学講座 外科一教室同門会役員(案)

(平成 30 年 5 月 12 日)

会 長	花崎 和弘
理 事	島津 栄一
理 事	小林 道也
理 事	並川 努
幹 事	杉本 健樹
幹 事	駄場中 研
幹 事	北川 博之
会計監事	田村 精平
会計監事	公文 正光

[事務局]

高知大学医学部外科学講座外科一教室

編集後記

外科仲間や医療関係者から「全国の都道府県の中で高知県だけは訪れたことがない」と言われる機会は多い。「高知の良さ」を熟知している者にとって、こうしたお話を聞いたたびに、残念に思ってきた。こちらの想いとは裏腹に、医学や医療関連の全国学会や大きなイベントでもない限り、遠路はるばる高知まで足を運んでくださる方は意外に少ないのかもしれない。

幸いなことに、2019年11月14日から16日の3日間にわたり、第81回日本臨床外科学会総会を高知市で開催させていただくことが決まった。当科にとっては開講以来最大のイベントであり、身の引き締まる思いである。本件は跡見 裕会長、炭山 嘉伸副会長をはじめとする日本臨床外科学会関係者の皆様からいただいた多大なるご支援・ご尽力の賜物であり、心から御礼申し上げたい。

高知での開催が決まった直後の2016年7月に、高知県庁に尾崎知事を訪ねてその概要を説明したところ、即決で県庁内に本総会推進プロジェクトチームを立ち上げていただいた。コンベンションリンクージュともタッグを組みながら、鋭意準備を推進中である。本総会開催に当たり、クリアすべき最大の難関は運営資金の調達と宿泊施設の確保である。高知市は人口30万人余りの地方都市である。明治時代に当地出身の寺田 寅彦が「地方の中小都市」と形容した状況は今も変わらない。本総会の参加予定者数は約7000名、一日当たりの最大宿泊想定数は4000名である。高知県ではこれまで経験した事がないくらいの最大規模のイベントといえる。「高知で本当に開催できるのか？」という不安の声は多い。一方、「高知開催はとても楽しみだ」という待望の声があるのもまた事実である。私が高知開催に踏み切った一番大きな理由は、高知への恩返しである。高知県における臨床外科学の発展という学術的な面だけでなく、経済活性化という面で、推計10億円の経済効果も見込まれる。未来への投資をはじめとする付加価値も含めたら本総会の高知県への貢献度は計り知れないものがある。

宿泊施設の確保に関しては、2017年12月19日に高知県ホテル・旅館組合の関係者を対象に本総会をサポートしていただくコンベンションリンクージュおよびJTBと共にプレゼンテーションをさせていただき、オール高知でのご支援・ご協力を呼びかけた。全国各地から一人でも多くの皆様にご参加いただき、是非とも「高知の良さ」を知っていただき、リピーターになっていただけたら幸いである。また高知県だけは行ったことがないという汚名返上もしたい。1200年以上続くお遍路の「おもてなし文化」の頂点を目指せば、「高知の良さ」を全国にアピールできる絶好のチャンスである。

奇しくも、総会開催期間中の11月15日は当地が生んだ幕末のヒーロー坂本 龍馬の生誕祭(命日も同じ日)に当たる。またご存知のように、2019年は平成から年号が変わる節目の年に当たるため、新しい年号で初めて開催される記念すべき日本臨床外科学会総会にもなる。本総会の準備委員長は、島津 栄一先生(島津病院理事長)にお願いし、ご快諾いただいた。本総会を通じて楷風会の結束がより一層強まるだけでなく、教室から新しい研究成果が生まれ、次世代を担う教室員たちが成長し、教室の発展にもつながれば、望外の喜びである。

いずれにしろ運営資金の確保も含めて、楷風会の総力を結集し、みんなで心をつなげて、「高知の良さ」を知っていただけるように全力で準備しなければ成功はおぼつかない大事業である。楷風会関係者の皆様には「For Kochi」を合言葉に、学会運営寄付金も含めて、これまで以上のご支援・ご協力を賜りたいと切に願う。楷風会会員の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げて、拙稿を閉じたい。

花崎 和弘

同門会誌 楷風 (年報) 第12号

発行人 花崎 和弘

発行所 高知大学医学部外科学講座外科1同門会

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

平成30年4月発行

印刷・製本 株式会社リーブル

医局のホームページがリニューアルしました是非ご覧ください♪
http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm_srgr1/index.html

